

【平成編】

1989

平成元年

P24

～

2018

平成30年

P53

1989

平成元年

世界の出来事

- ・ 中国天安門事件
- ・ ベルリンの壁崩壊
- ・ サンフランシスコ大地震

国内の出来事

- ・ 昭和天皇崩御、元号を昭和から平成に改元
- ・ 消費税実施、税率3%
- ・ 新語・流行語大賞(流行語)「オバタリアン/オバタリアン(旋風)」

'89/1 ~ '89/12

1989 (平成元年)

50th

バブル景気が続いている年であり、2回実施した経済調査ではいずれも景気の力強さを謳っている。また、当センター設立20年にあたり、21世紀に向けての展望や地域システムの変化など未来に向けたパラダイムシフトを予兆する調査等を行った。



11月号グラビア 生き生き経営⑦ 株式会社 大心苑 支配人 鳴田 勉 氏

高萩炭鉱閉山後、その跡地に青少年教育のための学習施設「大心苑」を建設し、1969年(昭和44年)に再スタート。鳴田氏は1970年に大心苑に入社、現在は支配人として「大自然の中での学習施設づくり」の理念の具現化を目指す。

茨城県内の出来事

トピックス 常磐線でスーパーひたち運行開始

- ・ 全国高校ラグビーで茗溪学園が本県勢で初優勝
- ・ 水戸市制施行100周年
- ・ 百里基地訴訟で最高裁上告破棄
- ・ 常磐新線法案成立
- ・ 大子町で全国育樹祭開催
- ・ オウム真理教による坂本堤弁護士一家殺害事件発生

この年の表紙一覧



各号の調査テーマ

- 1月号 年頭所感 昭和64年の重点事業と課題
昭和64年の経営課題と戦略
- 2月号 流動化が進む買物行動
～第9回茨城県広域消費動向調査結果概要～
- 3月号 茨城県の発展と地域システムの変化
- 4月号 座談会 21世紀の茨城を展望する
～地域・産業・経済・社会～
- 5月号 ビジネスにどうかす遊感覚
- 6月号 好調続く県内経済 問題点と今後の課題
－設備投資と人材問題を中心に－
- 7月号 ニュービジネス特集
ニュービジネスの現状と今後の展開方向
ニュービジネスの実例と組織づくり
- 8月号 消費者購買行動の変化と無店舗販売の成長
- 9月号 特集 中小企業の人材確保と人材活用
- 10月号 農業の変貌と地域活性化
- 11月号 商業とまちづくり
－地域商業の変化と商店街の魅力づくり－
- 12月号 構造変化の波に乗る県内経済
－景気の力強さを支えるもの－

Pick up



4月号では、創立20周年を記念して本県を代表する有識者8名による座談会を開催。第1部では、展望編として、地域・産業・経済・社会にフォーカスし21世紀における茨城の地域づくりの方向性について議論して頂いた。第2部では、常陽産業開発センターの役割と期待するものと題し、これからの地域社会に対する当センターの役割と進むべき方向について議論して頂いた。

1990

平成2年

世界の出来事

- ・イラク軍クウェート侵攻
- ・東西ドイツ統一
- ・ペルー大統領選で日系2世フジモリ氏当選

国内の出来事

- ・大学入試センター第1回試験実施
- ・大阪で国際花と緑の博覧会開催
- ・新語・流行語大賞(流行語)「ちびまる子ちゃん(現象)」

'90/1 ~ '90/12

1989 (平成元年)

50th

地域を押し量る上では生活者からの視点も必要となる。モータリゼーションの進展により、行政区を超え、生活圈ベースで地域の動きをみていくことが必要と考え、5月号より「生活圏域」をテーマに、地域の特長、現況と課題についてシリーズ調査を行った。



千数百年の伝統技術に支えられた本場結城紬。その産地問屋最大手が奥順である。文化財としての結城紬を守るだけでなく、結城紬ブランドを生かして新しいファッションを創り出し、業界のレベルアップを図りたいとしている。

茨城県内の出来事

トピックス 日立シビックセンター完成

- ・水戸市制100周年記念の水戸芸術館開館
- ・勝田一中の暴行事件で男子生徒死亡
- ・土浦市制施行50周年
- ・茨城県つくば美術館開館
- ・百里基地で日米共同訓練
- ・アサヒビール茨城工場上棟

この年の表紙一覧



各号の調査テーマ

- 1月号 年頭所感 平成2年の重点事業と課題
平成2年の経営課題と戦略
- 2月号 輸入品と地方流通業
ー輸入取引と地方商店街の振興方向ー
- 3月号 地域と生活の「豊かさ」調査
- 4月号 生活の広がりやと商圏の変貌
- 5月号 県際都市群と広域交流圏～古河地域の現況と課題～
- 6月号 地場産業振興と地域の活性化
～下館・結城地域の現況と課題～
- 7月号 地域の変化と中小工業の新展開
～日立地域の現況と課題～
- 8月号 文化と地域コミュニティ
～水戸・勝田地域の現況と課題～
- 9月号 広域都市圏と機能分担
～水戸・勝田地域(山間部)の現況と課題～
- 10月号 製造業のソフト化と地域の変化
～鹿島・神栖地域の現況と課題～
- 11月号 東京圏の拡大と地方中核都市の役割
～土浦・つくば地域～
- 12月号 息の長い景気拡大と県内経済の課題

Pick up



前年創立後20年間を振り返り、今後の調査研究について、産業経済ベースに加えて生活者ベースの調査研究にも重点をおく必要があることを確認した。そこで、3月号調査では、今後の地域計画づくりに役立てるため、地域のなかで生活者がどのような意識のもとに生活し、どのような生活スタイルを実現しようとしているのかを探った。

1991

平成3年

世界の出来事

- ・ 湾岸戦争勃発
- ・ ソビエト連邦崩壊
- ・ 米パンアメリカン航空倒産

国内の出来事

- ・ 新東京都庁舎開庁
- ・ 長崎県の雲仙普賢岳で火砕流発生(死者・行方不明43人)
- ・ 新語・流行語大賞:「…じゃあ～りませんか」

'91/1 ~ '91/12

1989 (平成元年)

50th

5月までは前年に続き、生活圏域にフォーカスしたシリーズ調査を行い、地域ごとの現状と課題について探った。6月号以降は、テーマを「茨城への波動」としシリーズ調査を行い、外部からの茨城に対する期待と評価を探った。



4月号グラビア 老舗のこころ 株式会社 祐月 代表取締役 和田 光弘 氏

祐月は、子供の成長を人形で祈り、祝う日本古来の伝統を守り続け、101年目を迎える。経営姿勢の根底には、「人形の歴史は人類の歴史」という伝統を守り、生活の潤いを与える伝統文化の担い手としての責務があるとしている。

茨城県内の出来事

トピックス 鹿島アントラーズFC創設

- ・ 国営ひたち海浜公園開園
- ・ アンブレラ展開催
- ・ つくばヘリポート開港
- ・ ゴルフ会員権問題の茨城CC開発会社が倒産
- ・ 板谷波山記念館から作品20点4億円相当が盗難
- ・ 日立の国有林で山火事180ha 焼失
- ・ 「悪魔の詩」翻訳の筑波大助教授が校内で殺害される

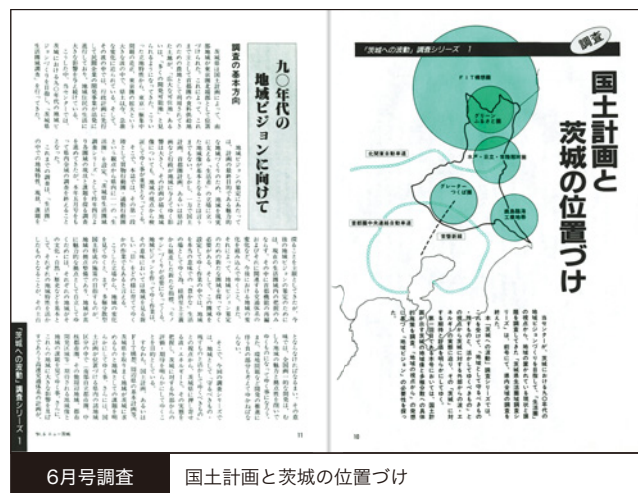
この年の表紙一覧



各号の調査テーマ

- 1月号 新春座談会 経済発展のサステナビリティと茨城年頭所感 平成3年の重点事業と課題
- 2月号 まちづくりと住環境の整備 ~土浦・つくば地域の現況と課題~
- 3月号 都市化と農業・農村の対応 ~石岡・鉾田地域の現況と課題~
- 4月号 ニュータウン住民の意識と行動 ~取手・竜ヶ崎・牛久地域の現況と課題~
- 5月号 工業化と地域の振興~下妻・水海道地域の現況と課題~
- 6月号 国土計画と茨城の位置づけ
- 7月号 福島・茨城・栃木(FIT三県)の新たな広域交流の構築に向けて -FIT構想の茨城への位置づけ-
- 8月号 周辺県の基本計画と茨城への期待 -広域的なネットワークづくりを目指して-
- 9月号 茨城県南西地域と常磐新線
- 10月号 常陸那珂地区開発と茨城の将来 -戦略プロジェクトの展開方向-
- 11月号 グリーンふるさと圏の役割とその方向性
- 12月号 座談会 産業構造の転換と地域社会の変化 転機を迎えた県内経済~1991年 茨城県経済回顧~

Pick up



シリーズ調査「茨城への波動」のうち、「地域として守るべきもの・残すものと、活かしてゆくべきもの」との視点から茨城に対する外部からの波・エネルギーの実態に迫り、「茨城」への期待と評価を明らかにしてゆく。第1回目の6月号では、国土計画が示す茨城の地域像と多極分散への具体的施策を調査。「地域の視点から」の発想に基づく地域ビジョンの必要性を探究した。

1992

平成4年

世界の出来事

- ・米ロサンゼルスでロス暴動発生
- ・ユーゴスラビア社会主義連邦共和国解体
- ・地球サミットがリオデジャネイロで開催

国内の出来事

- ・毛利衛がスペースシャトルで宇宙飛行
- ・ロック歌手の尾崎豊死去
- ・新語・流行語大賞:「きんさん・ぎんさん」

'92/1 ~ '92/12
1989 (平成元年)

50th

5月号までは前年に続き「茨城への波動」シリーズ調査を行い、鹿島臨海工業地帯などの将来を探った。後半は県内産業構造のシリーズ調査を行い、農林水産業、工業、商業、サービス業の分野別に構造転換の実態と要因分析を行い、方向性を提示した。



4月に水戸市立石川中学校に隣接する森の中に新しい図書館がオープン。水戸市で3番目の図書館となったこの西部図書館は緑と回廊の中にある。開館以来4ヶ月で登録者は既に3千名超、貸出図書は8万冊を超えた。

茨城県内の出来事

トピックス 関東鉄道常総線取手駅で暴走事故

- ・水戸市内のマンションから女子中学生飛び降り、3人死亡、2人重体
- ・パナマ船が日立港岸壁に衝突
- ・守谷町の花火工場爆発事故、2人死亡
- ・筑波大学学長に江崎玲於奈
- ・水戸市と常陸村合併
- ・大相撲名古屋場所です幕の水戸泉(水戸市出身)が初優勝
- ・那珂町に核融合炉国際研究那珂センター開設

この年の表紙一覧



各号の調査テーマ

- 1月号 新春鼎談 今、世界・日本・茨城は 年頭所感 経済団体・農業団体トップ
- 2月号 鹿島臨海工業地帯と茨城への期待
- 3月号 北関東自動車道沿線開発と広域都市圏
- 4月号 圏央道と茨城県南西地域
- 5月号 茨城県民福祉基本計画と将来ビジョン
- 6月号 成長する無店舗販売と地域商業の課題
- 7月号 茨城農業の特徴と階層分化
- 8月号 県内中小製造業の構造変化と今後の課題
- 9月号 商業環境の変化と地域振興の方向
- 10月号 生活と産業のサービス化 ー茨城の構造ー
- 11月号 茨城の農業者像と十年後のシナリオ
- 12月号 座談会 不況克服と地域産業の新たな展開

Pick up



「21世紀の鹿島の都市像」を展望した時、真の地域開発、都市づくりの新たな段階を迎えている。そこで2月号では、鹿島臨海工業地帯の変化と今後の発展方向を、都市間ネットワークの可能性から追求し、魅力ある都市へと飛躍するための都市機能について他県事例を検証しつつ考察。そして、21世紀の鹿島の都市像「人間都市鹿島」建設の条件、課題は何かを考えた。

1993

平成5年

世界の出来事

- ・ EC統合市場発足
- ・ 米・ミシシッピ川で大洪水
- ・ インドで大地震

国内の出来事

- ・ サッカーJリーグ開幕
- ・ 皇太子殿下ご結婚
- ・ 新語・流行語年間大賞:「Jリーグ」

'93/1 ~ '93/12

1989 (平成元年)

50th

前半は前年に引き続き製造業や商業などの産業面のシリーズ調査を実施している。後半は、常陸那珂開発、鹿島のスポーツ振興とまちづくり、つくばの国際物流ターミナルなど、地域の特徴に応じたプロジェクトとまちづくりに関する調査を行った。



5月号グラビア NEWぽーと 県立カシマサッカースタジアム

鹿島のまちはずれ、畑の真ん中に、茨城県が90億円の予算を投じ、収容人数15,000人のサッカースタジアムがオープンした。多くのサッカー小僧たちの夢を育むフィールド・オブ・ドリームとして紹介している。

茨城県内の出来事

トピックス 竹内藤男知事、収賄容疑で逮捕

- ・ 日立市の日鉱大煙突が倒壊
- ・ 鹿島アントラーズ、Jリーグ第1ステージ優勝
- ・ グリーンフェアいばらき93開催
- ・ 水戸駅北口ペデストリアンデッキ完成
- ・ カシマサッカースタジアム完成
- ・ 陶芸家松井康成、本県初の人間国宝に
- ・ 秋篠宮ご夫妻が全国緑化祭視察のため水戸市ご訪問

この年の表紙一覧



各号の調査テーマ

- 1月号 新春座談会 持続可能な地域の発展方向を探る
年頭所感 経済団体・農業団体トップ
- 2月号 県内中小製造業の発展方向と将来像
- 3月号 地域商業のあり方と選択
- 4月号 今、サービス産業に求められていること
- 5月号 働く場はどう変わるのか
—生活の変化と勤労者福祉—
- 6月号 都市化と中小工業 —水戸市の場合—
- 7月号 中心商店街に対する消費者の期待
—消費をリードする女性たちの目—
- 8月号 現地に見る常陸那珂開発
- 9月号 交通基盤の整備と生活環境
- 10月号 スポーツ振興とまちづくり
- 11月号 茨城の国際物流と拠点整備の方向
—つくばのインランド・デポを中心に—
- 12月号 県内経済の変化と発展への課題

Pick up



10月号調査 スポーツ振興とまちづくり

Jリーグの盛り上がりとともに「スポーツによるまちづくり」が注目を浴びている。鹿島アントラーズ自体「楽しいまちづくり」の懇談会から生まれ、Jリーグも地域主義を打ち出している。背景には余暇社会、生活の豊かさ、長寿社会の健康志向など様々な時代の要請がある。10月号ではこうしたスポーツとまちづくりとの関係を人的交流に焦点をあてて考察した。

1994

平成6年

世界の出来事

- ・ F1のセナ選手が激突死
- ・ 彗星(すいせい)群が木星に衝突
- ・ 英仏海峡トンネル開通

国内の出来事

- ・ 日本人初の女性宇宙飛行士・向井千秋が宇宙へ
- ・ 松本サリン事件
- ・ 新語・流行語大賞:「同情するならカネをくれ」等3語

'94/1 ~ '94/12
1989 (平成元年)

50th

茨城県の構造変化にフォーカスした調査を実施。10月号は300号記念号として、「茨城の構造変化の潮流と地域ビジョンの枠組み」と題し、茨城大学地域総合研究所と連携をとりながら、調査研究の成果を発表した。



とちぎ海浜自然の家は、栃木県がつくった海の分教場。(財)栃木県生涯学習振興財団が運営し、1994年7月でオープン3年目を迎える。学校の授業、子供会やスポーツ少年団、老人会などで、前年は延べ8万6千人が宿泊している。

各号の調査テーマ

- 1月号 新春座談会 これからの地域・企業・個人を考える
年頭所感 経済団体・農業団体トップ
- 2月号 「都市アメニティインフラ」を考える
～水戸都市圏をモデルにして～
- 3月号 不況克服に挑む県内企業
～構造変革期における経営の活路を探る～
- 4月号 動きはじめた商店街のCI作戦
- 5月号 土地と環境
- 6月号 常磐新線と沿線のまちづくり
- 7月号 県内製造業のグローバル戦略と地域経済の構造変化
- 8月号 福祉型社会へ向けて -「やさしさ」のシステム-
- 9月号 県民は何を望んでいるか ～県民選好度調査～
- 10月号 茨城の構造変化の潮流と地域ビジョンの枠組み
- 11月号 地方卸売業の現状と課題
- 12月号 新たな構造変革の岐路にたつ茨城県経済

茨城県内の出来事

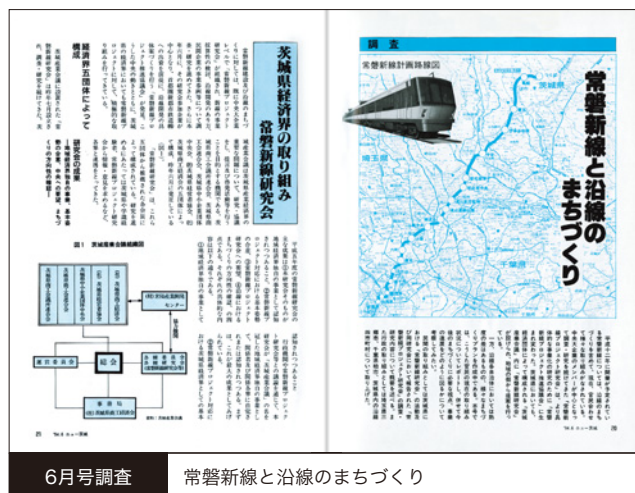
トピックス 常磐新線、秋葉原で起工式

- ・ 真岡鐵道がSLを復活
- ・ 県自然博物館開館で常陸宮ご夫妻来県
- ・ 中村喜四郎収賄容疑で逮捕
- ・ 竜神大吊り橋完成
- ・ 勝田市・那珂湊市合併、ひたちなか市発足
- ・ 県自然博物館開館
- ・ つくば国際大学、土浦市に開学

この年の表紙一覧



Pick up



6月号では、常磐新線沿線における官民の取り組み状況についてレポート。今後のまちづくりに必要な視点、事業の進展をどのように図るかについて考察している。民間の取り組みとしては、「常磐新線プロジェクト研究会」の調査・研究内容の概要について、行政の取り組みとしては、埼玉県三郷市、千葉県柏市、茨城県内の沿線4市町村について取り上げた。

1995

平成7年

世界の出来事

- ・ベトナム戦争終結20周年、米越国交正常化
- ・世界貿易機関（WTO）発足
- ・EC等を手掛けるAmazon.comがサービス開始

国内の出来事

- ・阪神淡路大震災発生、死者6,425人
- ・地下鉄サリン事件発生、12人死亡・6,000名余りが重軽傷
- ・新語・流行語大賞：「無党派」「NOMO」「がんばろうKOBE」

1989（平成元年）'95/1～'95/12

50th

為替相場のほか、科学技術や情報化など産業経済のグローバル化に伴う地域への影響に係る調査を主に実施した。また、地方シンクタンクのあり方や、中心市街地再生はどうあればよいかという視点による都市再生論などの特集も実施した。



1984年、琵琶湖から始まった「世界湖沼会議」は、世界各地をまわり今年また日本に帰って来た。第6回世界湖沼会議は10月の5日間、「人と湖沼の調和」をテーマに、土浦市とつくば市などで世界60ヶ国の関係者が会話し合われた。

各号の調査テーマ

- 1月号 新春座談会 産業経済のグローバル化と地域の自立
年頭所感 経済団体・農業団体トップ
- 2月号 県内商圈に重層化の兆し
ー第11回茨城県広域消費動向調査結果ー
- 3月号 構造的な環境変化下の中小企業経営
ー県内主要企業の経営動向調査よりー
- 4月号 特集 地方シンクタンク
- 5月号 特集 都市問題
～生活者ベースにたった都市計画と都心再生論～
- 6月号 わたしたちの、望むものは
ー県外在住者アンケート調査結果からー
急激な円高で迎えた地域経済・産業の新局面
- 7月号 地域の情報化に求められるもの
～安心・安全にそして楽しい生活のために～
- 8月号 水戸市国道50号バイパスに見る
ロードサイドビジネスの特徴
- 9月号 新産業基盤の創造に求められていること
ー茨城の実態ー
- 10月号 科学万博10年後 ー人間・居住・環境と科学技術ー
常磐新線沿線の街づくり
- 11月号 規制緩和と県内企業の対応
- 12月号 為替相場の激変に揺れた県内経済

茨城県内の出来事

トピックス 鹿島町・大野村が合併し、鹿行地区の中核都市となる「鹿嶋市」が誕生

- ・国道294号常総バイパス全線開通
- ・日本陶芸界の巨匠「板谷波山記念公園」オープン
- ・県立医療大学開学、1期生として3学科171人が入学
- ・茶摘み等を体験できる「奥久慈茶の里公園」オープン
- ・県内3番目の道の駅「道の駅・さとみ」オープン
- ・常陽銀行創立60周年記念事業で「常陽資料館」が完成
- ・「第6回世界湖沼会議・霞ヶ浦'95」開催

この年の表紙一覧



Pick up



この年の2月に水戸市で地方シンクタンク協議会研究発表会が開催され、北海道から九州に至る全国のシンクタンクが一堂に会した。一方、4月には県内2つ目のシンクタンク・常陽産業研究所が設立された。そこで、4月号では、同協議会のパネルディスカッションの模様を紹介するとともに、常陽産業研究所の目指すものを紹介し、地方でのシンクタンクの意義を考察した。

世界の出来事

- ・アトランタ五輪開催、日本勢メダル14個
- ・国連総会で「包括的核実験禁止条約」採択
- ・「エンデバー」打ち上げ、若田光一乗船

国内の出来事

- ・東京銀行・三菱銀行が合併、「東京三菱銀行」誕生
- ・広島「原爆ドーム」、「厳島神社」が世界遺産に登録
- ・新語・流行語大賞:「メークドラマ」等3語

1989(平成元年) '96/1 ~ '96/12

50th

この年に当財団の名称を「常陽産業開発センター」から「常陽地域研究センター」へ変更。機関誌名も「ニュー茨城」から「JOYO ARC」とし、産業開発に加えて、生活・福祉、文化、環境等の地域社会の様々な問題に取り組むことを、より鮮明にした。



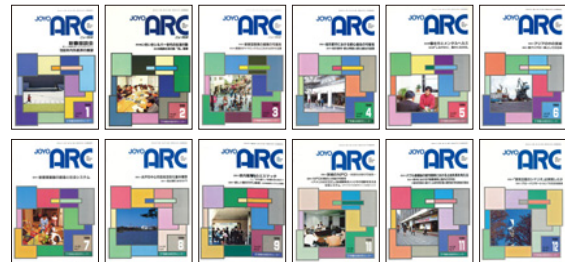
水戸キッズクラブは、幼稚園児から小学校低学年までを対象にした国際交流団体。普段感覚で外国人とふれあうことで外国人を理解していく。英会話はあくまで道具であり、活動を通じたコミュニケーションが目的である。

茨城県内の出来事

トピックス 「霞ヶ浦開発事業」完成、総事業費2,800億円

- ・北関東自動車道、水戸南IC～水戸大洗IC間5.4km開通
- ・国内最大級のダウンバースト発生、下館市で死者20人
- ・県、女性施策指針「いばらきハーモニープラン」策定
- ・五浦、高戸、大洗が「日本の渚100選」に選出
- ・つくば市に市民活動の拠点「つくばカピオ」オープン
- ・水戸市の信楽園公園内に「信楽園センター」オープン
- ・リハビリ専門病院「県立医療大学付属病院」開院

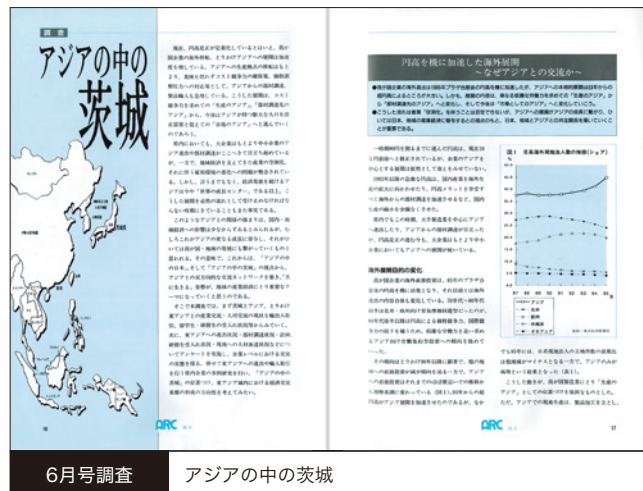
この年の表紙一覧



各号の調査テーマ

- 1月号 年頭所感 地域経済団体の新しい役割と活動のあり方に想う 新春座談会 新しい社会システムのデザイン
- 2月号 いきいきシルバー世代の生活行動
- 3月号 家業型商業の展開の可能性
- 4月号 地方都市における都心居住の可能性
- 5月号 働き方とメンタルヘルス
- 6月号 アジアの中の茨城
- 7月号 新産業基盤の創造と社会システム
- 8月号 水戸市中心市街地活性化基本構想
- 9月号 県内雇用のミスマッチ ～「すれ違い」を埋めるために～
- 10月号 茨城のNPO ー非営利分野の可能性ー
- 11月号 バブル崩壊後の都市開発における土地利用を考える
- 12月号 「景気回復のシナリオ」は実現したか ー96年 県内経済回顧ー

Pick up



6月号は、東アジアへの進出状況・部材調達状況・計画、研修生受入れ状況・現地への人材派遣状況などについてアンケートを実施し、企業レベルでの交流の実態を探った。併せて東アジアへの進出や輸入取引を行う県内企業の事例研究を行い、「アジアの中の茨城」の位置づけや東アジア域内における経済交流基盤の形成の方向性を考察した。

1997

平成9年

世界の出来事

- ・香港、英国から中国へ155年振りに返還
- ・アジア通貨危機
- ・ダイアナ元英国皇太子妃、パリで事故死

国内の出来事

- ・消費増税実施、3%から5%へ
- ・「北海道拓殖銀行」破綻、「山一証券」廃業申請
- ・新語・流行語大賞：「失楽園(する)」

1989 (平成元年)

'97/1 ~ '97/12

50th

構造改革元年、経済社会の枠組みの変化、新生活基盤の創造などをテーマにしているように、地域を取り巻く環境変化に対する調査を実施した。また、将来少子高齢化時代が予想される中で、従来システムが機能不全に陥る、今後の地域社会の姿を探っている。



4月号からは、「いばらき未来図」と題し、茨城の未来を予感させるモノづくりの事例を県内各地に訪ねる。第1回は、産学官で取り組む「高齢社会」向けのものづくりとして、茨城県工業技術センターを訪ね、研究成果から生み出された高齢者向け製品「コミュニケーションボックス」と「電動ムーバー」を紹介。

各号の調査テーマ

- 1月号 新春座談会 新しい産業・生活基盤を可能とする環境基盤とは
- 2月号 市民が創る地域文化
- 3月号 成熟化のなかの「回復」とは、「企業経営」とは ~97年度・構造改革元年の課題~
- 4月号 「農」のある生活
- 5月号 「少子化・高齢化時代」とは
- 6月号 新生活基盤の創造 ~ノーマライゼーション社会のために~
- 7月号 「イメージアップによる地域づくり」 ~NHK大河ドラマ「徳川慶喜」放映を題材にして~
- 8月号 「環境創造とゼロエミッション」
- 9月号 従来の「枠組み」を超えて ~経営課題と対応策~
- 10月号 生活技術の現在 ~環境問題への技術的取り組み~
- 11月号 経済社会の枠組み変化と県内プロジェクト
- 12月号 97年県内経済回顧
働きづらくなった景気循環メカニズム
~「緩やかな持ち直し」「停滞」の意味するものは~

茨城県内の出来事

トピックス 特急「フレッシュひたち」登場、水戸―上野間を最大10分短縮

- ・出島村、町制に移行し「霞ヶ浦町」へ
- ・中国―鹿島港を結ぶ定期コンテナ船(2航路)が初入港
- ・サッカーチーム「水戸ホーリーホック」誕生
- ・県内初のコミュニティFM局「FMぱるるん」開局
- ・つくば市に内陸通関施設(インランド・デポ)完成
- ・北茨城市に「茨城県天心記念五浦美術館」開館
- ・真壁石材協同組合、「真壁石」商標登録

この年の表紙一覧



Pick up



イメージアップによる地域づくりには、「地域のイメージアップとは何か」、「イメージ形成要素は何か」、「どのようにPRをしていくか」などの課題がある。そこで、「徳川慶喜」放映に伴う一連の動きがよりよい地域づくりに繋がっていくにはどうあるべきか、「徳川慶喜」を取り上げ、県のイメージアップ提言書で示された方向性に従い考察した。

世界の出来事

- ・ロシア財政危機
- ・米IT大手「Google」設立
- ・北朝鮮テポドン発射、三陸沖に着弾

国内の出来事

- ・長野オリンピック開催、日本は10個のメダルを獲得
- ・規制緩和・撤廃を進める「日本版金融ビッグバン」スタート
- ・新語・流行語大賞:「だっちゅーの」等3語

1989 (平成元年)

'98/1 ~ '98/12

50th

大店法廃止に伴い、「中心市街地空洞化の懸念」などが内包するまちづくり、地域システムを支える要素の一つである環境基盤の創造などがテーマにされている。また、景気低迷が続く中で堅調な経営が続いている地域企業の取り組みについて紹介。



いばらき未来図を通年掲載。9月号では、7月にオープンした「大子おやき学校」を紹介。廃校を活用し地元農家の郷土食「ほどやき」を今風にアレンジして製造販売することで、地域の活性化に繋げている。

各号の調査テーマ

- 1月号 新春座談会 「交流・連携による循環型の地域づくり」～内発的な地域の活性化とは～
- 2月号 商圈から生活圏へ ～第1回生活行動圏調査速報～
- 3月号 増幅する不安感、企業が求めるものは
- 4月号 街の再生に向けて～動く人・動かす人・応援団
- 5月号 「環境市場の現在」～着実な前進のために～
- 6月号 「茨城県内の住宅市場の動向」
- 7月号 不況下で頑張る県内企業 ～成熟経済下での経営戦略とは～
- 8月号 新環境基盤の創造とゼロ・エミッション社会のために
- 9月号 介護保険制度への移行と福祉のまちづくり
- 10月号 地方都市の中心街の実態と活性化の取り組み
- 11月号 ポスト慶喜と歴史資産の活用
- 12月号 景気の悪循環から抜け出すために (平成10年県内経済回顧)

茨城県内の出来事

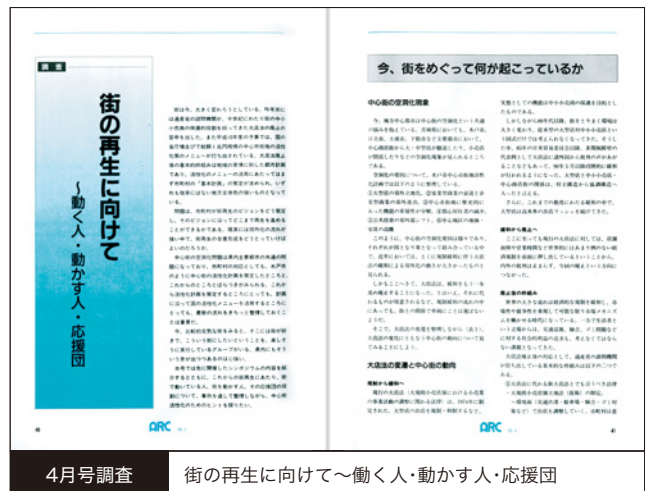
トピックス 大河ドラマ「徳川慶喜」放送

- ・「常陸那珂港」供用開始、記念式典開催
- ・JR牛久駅・荒川駅間に「ひたち野うしく駅」開業
- ・ジョイフル本田、ひたち海浜公園隣接地に大型SC開業
- ・土浦駅前にペDESTリアンデッキ完成
- ・県内5番目の道の駅「奥久慈だいい」オープン
- ・多目的温泉プール「フォレスパ大子」オープン
- ・那珂町に展示施設「茨城県きのこ博士館」完成

この年の表紙一覧



Pick up



半世紀にわたり街の中小小売業の保護的役割を担ってきた大店法が廃止されることとなった。商業施設の郊外化により中心街の空洞化が進む中、市町村の対応としては中心街の活性化計画を策定する動きがみられる。4月号では、これからの街再生にあたり、街で働いている人、街を動かす人、その応援団の役割について事例を整理し、中心街活性化のためのヒントを探った。

1999

平成11年

世界の出来事

- ・ EU、単一通貨「ユーロ」を導入
- ・ マカオ、ポルトガルから中国へ返還
- ・ 2000年問題、世界規模でプログラム修正

国内の出来事

- ・ 日本銀行、ゼロ金利政策実施
- ・ 男女平等を推進する「男女共同参画社会基本法」成立
- ・ 新語・流行語大賞:「ブッチホン」「リベンジ」「雑草魂」

1989 (平成元年)

'99/1 ~ '99/12

50th

4月号で4年間の「地域システム」の研究成果を総括。7月号からは大テーマを「共創の世紀 競争力から共創力へ」とし、「共に創り上げていく能力」こそが、地域づくりの鍵になるとして新たなシリーズ調査を開始した。



10月号から各地域で育ちつつある元気なイベントを紹介する。第1回は、水戸芸術館で開催された公募ボランティアモデルを中心とした「水戸ファッションフェスタ」。ファッションを通して「光り輝く水戸の街」演出を目的としている。

各号の調査テーマ

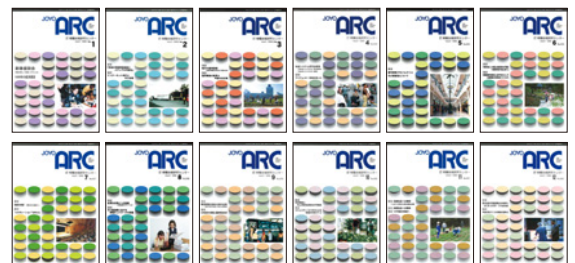
- 1月号 新春座談会 「茨城の新しい地域システムとは」
- 2月号 茨城の情報発信基盤とメディアの可能性
- 3月号 県内の雇用実態～企業の雇用方針はどう変わるか～
- 4月号 地域システム研究会報告 茨城を楽しむ30の方法
- 5月号 都市開発プロジェクトとその事業性について
- 6月号 港湾を核とした物流と地域活性化の可能性
～常陸那珂港の今後に向けて～
- 7月号 共創の世紀 ー競争力から共創力へー
- 8月号 企業生き残りへの挑戦 ー企業連携のポイントはー
- 9月号 構造調整を進める県内企業
～経済対策の効果と今後の企業経営～
- 10月号 市民事業と中心市街地活性化の可能性
- 11月号 共創社会への期待 ～この10年から見た変化の芽～
- 12月号 県内企業の「構造調整」は本格的にはじまったのか

茨城県内の出来事

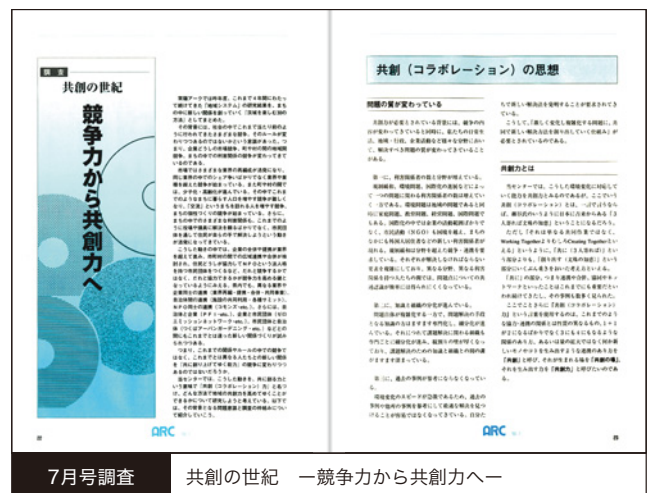
トピックス 東海村JCO臨界事故発生、被ばくで2人死亡

- ・ 新県庁舎開所、北側には県開発公社ビルも完成
- ・ 「ハイマート」と「たいらや」合併、「エコス」誕生
- ・ W杯に向け道路整備、国道51号鹿嶋バイパス開通
- ・ 日立鉾山の厚生施設「旧共栄館」、国の登録文化財に
- ・ 千波湖周辺を「偕楽園公園」と総称、面積は世界2位
- ・ 「日立地区産業支援センター」オープン
- ・ つくば国際会議場「エポカルつくば」オープン

この年の表紙一覧



Pick up



今後の地域のあり方として、これまでの関係やルールの中での競争ではなく、これまでとは異なる人たちの新しい関係を「共に創り上げていく能力」の競争に変わりつつある。そこで7月号では、「こうした動きを、共に創る力という意味で「共創(コラボレーション)力」と名づけ、どんな方法で地域の共創力を高めていくことができるのかについて考察していくこととした。

世界の出来事

- ・金大中韓国大統領にノーベル平和賞
- ・プーチン、ロシア大統領に就任
- ・2000年問題のうち閏日問題が発生

国内の出来事

- ・イチロー、日本人野手で初めてメジャーへ
- ・高齢者を社会全体で支える「介護保険制度」スタート
- ・新語・流行語大賞:「おっはー」「IT革命」

1989 (平成元年)

'00/1 ~ '00/12

50th

前半は産学官連携や自治体間の共創の可能性を探ったほか、PFIをテーマに官の仕事に対する民間ノウハウの活用可能性を調査した。後半は、構造変化に対する県内ものづくり企業の今後の経営対応をはじめ経営・経済動向について考察した。



5月20日から16日間、下妻市の小貝川ふれあい公園で「フラワーフェスティバル2000」が開催された。約5haに植えられた500万本のポピーが赤じゅうたんとなり、河川敷に彩りを添えて市民の目を楽しませてくれる。

各号の調査テーマ

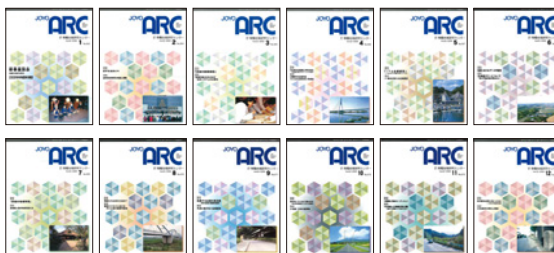
- 1月号 新春座談会 「共創の世紀を語る」
- 2月号 「産学官連携の今」
- 3月号 「茨城の創業実態」
- 4月号 「自治体の広域連携と市町村合併」
～自治体間の共創(コラボレーション)の可能性～
- 5月号 「ITと企業経営」
～ITをどのように企業経営に活かしていくか～
- 6月号 地域におけるPFIの可能性
- 7月号 「茨城の地域特性」
- 8月号 茨城のゴミはゼロになるか?
- 9月号 改善する企業の景況感―県内企業の業績改善度―
- 10月号 県内のモノづくりはどう変わるのか
～県内工業の構造変化とこれからの企業経営～
- 11月号 介護保険と茨城のセーフティネット
- 12月号 県内経済は回復に向かったのか～2000年経済回顧～

茨城県内の出来事

トピックス 旧県庁本庁舎が「三の丸庁舎」として開庁

- ・県北を中心に降雹被害、被害額4億円弱
- ・旧県庁本庁舎が「三の丸庁舎」として開庁
- ・「ライトオン」、県内で5社目となる東証1部上場
- ・常磐自動車道、三郷IC―水戸IC間全ての6車線化完了
- ・県内3金融機関、デビットカードのサービスを開始
- ・伊奈町に「ワープステーション江戸」オープン
- ・水戸信用金庫と龍ヶ崎信用金庫が合併、全国信金中27位に
- ・「いばらきハーモニープラン」後期計画発表

この年の表紙一覧



Pick up



4月号調査 「自治体の広域連携と市町村合併」
～自治体間の共創(コラボレーション)の可能性～

企業のリストラクチャリングにならった自治体の行財政改革、企業の合併にならった市町村合併が進められている。全国的に進められている行政改革や地方分権の流れの中で、県内の自治体はどう改革を行い、共創力を高めていくのか。4月号では県内の市町村合併や広域連携の事例を調査し、求められる自治体連携の姿とそれを進めるための「共創戦略」について考察した。

2001

平成13年

世界の出来事

- ・「米同時多発テロ事件(9.11)」発生
- ・インターネット百科事典「Wikipedia」開設
- ・オアフ島沖で「えひめ丸事故」、9人死亡

国内の出来事

- ・浦安市に「東京ディズニーシー」、大阪府に「USJ」が開園
- ・さくら銀行・住友銀行が合併し、「三井住友銀行」誕生
- ・新語・流行語大賞:「小泉語録」

1989 (平成元年)

'01/1 ~ '01/12

50th

5月号で2年間のシリーズ調査「共創の世紀へ」のまとめを行った。その中で今後必要とされているのは、新しい100年にふさわしい「茨城のイメージ」を共に創り上げていくための地域経営力であるとし、10月号からの新たなシリーズ調査の布石としている。



潮来は川と湖に囲まれ、江戸時代より海運陸路の要所として発展してきた。水郷潮来あやめまつりは今年で50回を迎える。あやめ娘は20名おり、一般向け舟運航に同乗したり、嫁入り舟イベントのお嫁さん役もこなす。

各号の調査テーマ

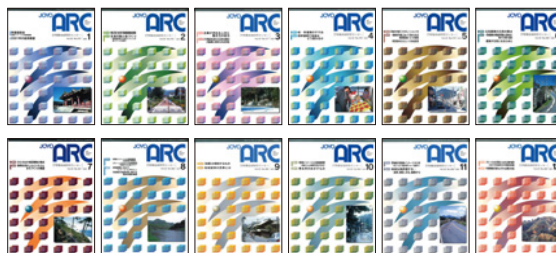
- 1月号 新春座談会 地域イメージと地域経営
- 2月号 第2回生活行動圏調査速報
- 3月号 企業が求める人材と働き方の変化
～中小企業の現状と展望～
- 4月号 地・学連携のすすめ
- 5月号 茨城の共創(コラボレーション)力
- 6月号 元気農業の元気の素は
- 7月号 ひたちなか地区開発の現状
- 8月号 地域イメージと地域経営 ～地域資源の再発見～
グリーンふるさとの地域資源
～常陸秋そばの郷づくり～
- 9月号 「改革」の意味するもの
- 10月号 地域イメージと地域資源
～地域にどんな資源が存在するのか
- 11月号 茨城の地域イメージとは
～日立・つくば・下館の市民アンケート結果から～
- 12月号 グローバル化の荒波にもまれる県内経済
～2001年茨城県内の年間経済回顧～

茨城県内の出来事

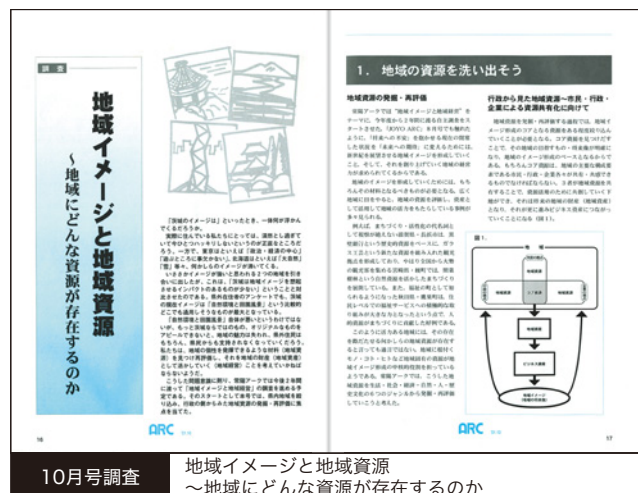
トピックス 常総学院、選抜高等学校野球大会(春の甲子園)優勝

- ・潮来町・牛堀町合併、「潮来市」へ
- ・茨城県、「フィルム・コミッション」設置でロケ誘致
- ・旧県議会議事堂内を改装し、新県立図書館オープン
- ・少子化対策「大好きいばらきエンゼルプラン21」作成
- ・国道349号の地下バイパス「梅香トンネル」貫通式
- ・水海道市で「千姫まつり」初開催、市街地でパレード
- ・県警、視覚障がい者等対象に「メール110番」開始

この年の表紙一覧



Pick up



茨城県は地域イメージを想起させるものが少ない。もっと茨城らしさをアピールできないと、次第に地域の魅力が失われていく懸念がある。そのためには、地域資源を見つて再評価し、地域資産として生かしていく地域経営力が必要となる。10月号では今後2年間「地域イメージと地域経営」のシリーズ調査を行うにあたり、行政の視点から資源の発掘・再評価にフォーカスした。

世界の出来事

- ・ EU12か国でユーロ紙幣・硬貨の流通開始
- ・ 東ティモール共和国、インドネシアから独立
- ・ 南アフリカで「地球サミット2002」

国内の出来事

- ・ サッカーワールドカップ日韓共同開催
- ・ 初の日朝首脳会談、拉致被害者5人が日本へ帰国
- ・ 新語・流行語大賞:「タマちゃん」「W杯(中津江村)」

1989 (平成元年)

'02/1 ~ '02/12

50th

地域資源の活用や再生関連の調査が多い。6月号では、本年度に地域再生研究会を立ち上げて、まちづくり戦略の一環として、地域資産から派生したビジネス資産を産業戦略へとつなげられるよう地域調査・産業調査を実施していくこととした。



麻生町で、JAなめがた主催によるイベント「収穫体験と野菜ふれあい祭り」を開催。稲刈りと芋掘りのほか、クイズ大会や新鮮野菜の直売、試食コーナーなど、秋を再発見するイベントに約500人が参加した。

各号の調査テーマ

- 1月号 新春座談会 「地域の産業再生と地域資源」
- 2月号 地域資源の活用と地域の再生
～「温泉」資源を例として～
- 3月号 資源の活用と地域の再生
～少子高齢化時代の人的資源の活用～
- 4月号 「茨城の食品産業と中国」
- 5月号 ワールドカップ開催とまちづくり
- 6月号 「地域資源の活用と地域の再生」
- 7月号 「今、つくばで～つくばの胎動」
- 8月号 「県内建設業関連企業の環境変化における取り組み」
- 9月号 「外国人労働者と地域」
- 10月号 「県西地域内陸型工業団地の今」
- 11月号 「県内食品流通の現状と今後」
- 12月号 2002年茨城県内経済の年間回顧
～デフレ下で各経済主体はいかなる行動をとっているのか～

茨城県内の出来事

トピックス 日韓W杯、カシマサッカースタジアムで1次リーグ3試合開催

- ・ 大洗水族館、「アクアワールド・大洗」へリニューアル
- ・ 旧守谷町、県内22番目の市となる「守谷市」へ
- ・ 公共工事めぐる汚職事件、石岡・下妻両市長ら逮捕
- ・ 「石岡信用金庫」破綻、水戸信金を核に3信金合併へ
- ・ 芸術館広場で「水戸納豆早食い世界大会」初開催
- ・ 自動車道「りんりんロード」全線開通、全線約40km
- ・ 日立港で北朝鮮の貨物船「チルソン」座礁、重油流出

この年の表紙一覧



Pick up



ワールドカップ開催決定後、鹿島地域を中心に地域総出でハード面の整備や、ソフト面の態勢づくりなど、様々な取り組みが実施されてきた。こうしたパワーはまちづくりにどんな効果をもたらした、これからどの方向に向かうのか。そして厳しい球団経営環境の中でこの経験をどう活かしていくのか、その2点にフォーカスして調査を行った。

2003

平成15年

世界の出来事

- ・「イラク戦争」開戦、フセイン政権崩壊
- ・中国で新型肺炎「SARS」流行、死者700人超
- ・「コロンビア号」空中分解、乗員全員死亡

国内の出来事

- ・地銀上位行の「足利銀行」経営破綻、一時国有化
- ・複合商業施設「六本木ヒルズ」オープン
- ・新語・流行語大賞：「毒まんじゅう」「なんでだろ～」「マニフェスト」

1989 (平成元年)

'03/1 ~ '03/12

50th

地域再生をテーマとした調査が多くを占める。地域産業の再生、構造改革特区と地域再生、市町村合併と地域の再編、開発プロジェクトと地域再生など、とくに分野問わず、産業・行政・地域などの広範囲の分野から考察している。



3月22～31日に磯出大祭礼が執り行われた。大祭礼は西金砂神社と東金砂神社の神霊が72年に一度、日立市の水木浜へ渡御する祭事である。水木浜では海水で神体を清める秘法を行い、天下太平、五穀豊穡、万民豊楽を祈願する。西暦850年が第1回とされる。

各号の調査テーマ

- 1月号 2003年 元気企業はこう考える
- 2月号 介護マーケットの現状と地域福祉
- 3月号 かしま地域の今
～鹿島臨海工業団地の強化とかしま地域の産業政策～
- 4月号 茨城における地域産業の再生
- 5月号 「構造改革特区と地域の再生」
～県内で進む構造改革特区構想～
- 6月号 「市場を形成する基礎的条件」～人口動態予測等～
- 7月号 「市町村合併と地域の再編」
- 8月号 茨城シングルのライフスタイル
- 9月号 茨城のシニア(シルバー)の消費行動
- 10月号 ～開発プロジェクトと地域の再生～
つくばエクスプレスの可能性
- 11月号 茨城のヤング・キッズと教育産業
- 12月号 2003年 年間経済回顧
～景況感改善下の県内経済動向～

この年の表紙一覧



Pick up



地域を覆う「将来への不安」を「未来への期待」へと変えていくためには、個々の事業や企業の再生だけでなく、地域の生活をどう再生するかという視点を含んだ「地域産業の再生」が必要である。そして再生の先には、私たちが、そして子供たちが「働きたくなるような職場」と「暮らしたくなるようなまち」を創り出す意思の力が必要となる。

世界の出来事

- ・自衛隊イラク派遣開始
- ・「スマトラ島沖地震」発生、死者等30万人
- ・国際決済銀行(BIS)が新自己資本規制を決定

国内の出来事

- ・最大震度7の「新潟県中越地震」発生、死者68人
- ・国内で79年ぶりに「鳥インフルエンザ」の発生を公式確認
- ・新語・流行語大賞:「チョー気持ちいい」

1989 (平成元年)

'04/1 ~ '04/12

50th

前年に引き続き、地域再生関連の調査を主に実施した。ライフ・サイクル、情報技術の利用、環境市場の育成、地域製造業の再構築(日立・ひたちなか地域)、農業および関連産業、グローバル化などの視点から、県内の地域再生を探った。



東京まで電車で約1時間、首都圏への通勤圏・ベッドタウンとして発展してきた牛久市。牛久沼、牛久シャトー、小川芋銭、住井すゑなど地域固有の資源と併せて、地元人の活躍の一端を紹介。

茨城県内の出来事

トピックス 大宮町に4町村編入合併、「常陸大宮市」へ

- ・記録的な猛暑・台風、県内初4月に真夏日
- ・NHK県域デジタル放送スタート
- ・金砂郷町・水府村・里美村が「常陸太田市」へ編入
- ・汚職や選挙違反止まらず、八郷町長らも逮捕
- ・大関武双山引退、18歳の稀勢の里が幕内昇進
- ・3信用組合が合併、新たな県信用組合としてスタート
- ・勝田・那珂湊2所合併、「ひたちなか商工会議所」誕生
- ・「丸井土浦店」閉店、37年の歴史に幕

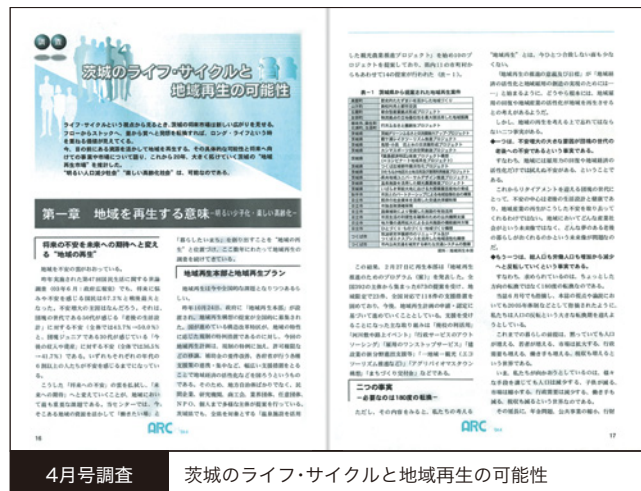
この年の表紙一覧



各号の調査テーマ

- 1月号 2004年 元気企業はこう考える
- 2月号 第3回生活行動圏調査速報
- 3月号 茨城の家族の生活行動と子育て・教育・住宅需要
- 4月号 茨城のライフ・サイクルと地域再生の可能性
- 5月号 情報技術の利用と地域再生の可能性
- 6月号 多様化する労働市場と新たな人材活用方策
- 7月号 環境市場の育成と地域の再生
- 8月号 地域製造業の再構築(日立・ひたちなか地域)
- 9月号 農業および関連産業の動向と地域再生
- 10月号 グローバル化への対応支援と地域再生
- 11月号 地域の活性化とコミュニティの再生
- 12月号 茨城県経済の年間回顧2004

Pick up



ライフ・サイクルという視点で見る時、茨城の将来市場は新しい広がりを見せる。フローからストックへ、量から質へと発想を転換すれば、ロング・ライフという時を重ねる価値が見えてくる。今、目の前にある資源を活かして地域を再生する。その具体的な可能性と将来に向けての事業や市場について語り、これから20年、大きく拓けていく茨城の「地域再生市場」を推計した。

平成17年

世界の出来事

- ・ 米、ハリケーン「カトリーナ」で甚大な被害
- ・ 「愛・地球博」開幕、2,200万人超が来場
- ・ タイで夫婦別姓可へ、夫婦同氏は日本だけに

国内の出来事

- ・ JR 史上最悪の「JR 福知山線脱線事故」発生、107人死亡
- ・ 郵政民営化関連法案が可決・成立
- ・ 新語・流行語大賞：「小泉劇場」「想定内(外)」

1989 (平成元年)

'05/1 ~ '05/12

50th

茨城県内の出来事

トピックス

つくばエクスプレス(TX)開業

- ・合併特例法3月末で期限切れ、14新市町村誕生
- ・「日立電鉄線」運行廃止、77年の歴史に幕
- ・「第56回全国植樹祭」開催、天皇皇后両陛下ご臨席
- ・県南部で鳥インフルエンザ拡大、約230万羽を処分
- ・萩本欽一、球団「茨城ゴールデンゴールズ」を結成
- ・「イオン水戸内原ショッピングセンター」オープン
- ・「つくばクレオスクエアキュート」オープン

この年の表紙一覧



函館市金森倉庫群、金沢市民芸術村、小坂町康楽館など産業遺産の動態保存の成功例としてあげられる場所がある。茨城の今後の保存活動に活かせないかと先進事例を紹介。その第一段として、北九州市の門司港レトロの事例を紹介。

各号の調査テーマ

- 1月号 新春座談会 「新しい結のかたち」
ーいばらきパートナーシップの新展開ー

- 2月号 地域再生プログラム・構造改革特区による地域再生

- 3月号 5つの視点から見る地域再生の意義

- 4月号 地域再生10のプラン

- 5月号 常陽ARC座談会「茨城の地域再生の可能性」

- 6月号 茨城の“地域力”を育てる

- **7月号** 農作物の生産・流通と多様な食の道づくり
～地産地消に本腰を～

- 8月号 つくばエクスプレス開通と沿線開発

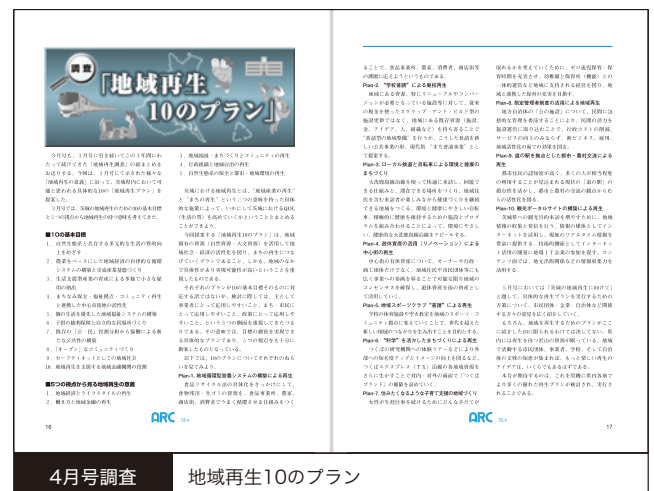
- 9月号 少子・高齢社会における中心市街地

- 10月号 地域の産業・企業力
～ひたちなか地域の産業活性化の取り組み～

- 11月号 地域の人材育成・社会力
～学校と地域社会との関わり～

- 12月号 2005年 茨城県経済の年間回顧

- Pick up



3年間にわたって続けてきた「地域再生調査」の総括。3月号で示された様々な「地域再生の意義」に沿って、地域循環型営農システムの構築による再生、「学校普請」による廃校再生、ローカル鉄道と自転車による環境と健康のまちづくりなど、茨城県内において可能と思われる具体的な10の「地域再生プラン」を提案している。

世界の出来事

- ・ タイで軍事クーデター、タクシン政権崩壊
- ・ インドネシア・ジャワ島中部で大地震発生
- ・ 国際天文学連合は冥王星を惑星から格下げ

国内の出来事

- ・ ライブドアグループ代表・堀江貴文逮捕
- ・ 日銀は「ゼロ金利」解除を決定
- ・ 新語・流行語大賞:「イナバウアー」「品格」

1989 (平成元年)

'06/1 ~ '06/12

50th

平成の大合併は時限立法の期限である2008年3月をもって一段落した。しかし、合併はスタートであることを考えると課題は山積みである。本年はそのような合併後の市町を元気にするにはどうすべきか、地域力向上などをテーマとする調査が多くを占めた。

真壁のひなまつり

歴史ある真壁の町並み・活用されている旧真壁町。住民の自発的なおもてなしの心から始まったこのまつりは、回を重ねることによって来訪者が増え、春を告げるイベントのひとつとなっている。

真壁のひなまつり

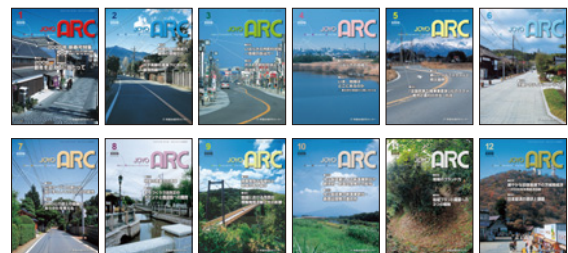
歴史ある真壁の町並み・活用されている旧真壁町。住民の自発的なおもてなしの心から始まったこのまつりは、回を重ねることによって来訪者が増え、春を告げるイベントのひとつとなっている。

歴史的建造物が保存・活用されている旧真壁町。住民の自発的なおもてなしの心から始まったこのまつりは、回を重ねることによって来訪者が増え、春を告げるイベントのひとつとなっている。

各号の調査テーマ

- 1月号 2006年 新春号特集
第1部 “超”いばらき企業の視野
第2部 茨城の“新”市・町合併特集
- 2月号 地域の人材育成力 雇用の現場から
- 3月号 いばらきの市町村合併 ～地域の自治力～
- 4月号 いばらきの地域力
- 5月号 新しいライフスタイルと県北振興
- 6月号 茨城アクティブシニアライフ
- 7月号 公共サービスの新たな担い手としてのNPOの可能性
～地域の市民力～
- 8月号 地域の商業力の育成
- 9月号 情報発信の多様化と地域の取り組み
- 10月号 中小製造業による新事業創出や新技術・新製品開発の可能性
- 11月号 地域のブランド力
- 12月号 緩やかな回復基調下の茨城県経済
～2006年年間経済回顧～

この年の表紙一覧



Pick up

いばらきの市町村合併 ～地域の自治力～

1 平成の市町村合併とは

1. 合併の意義と目的

合併の意義は、合併後の自治体の発展と住民の生活の向上にある。合併の目的は、合併後の自治体の発展と住民の生活の向上にある。

2. 合併の意義と目的

合併の意義は、合併後の自治体の発展と住民の生活の向上にある。合併の目的は、合併後の自治体の発展と住民の生活の向上にある。

3. 合併の意義と目的

合併の意義は、合併後の自治体の発展と住民の生活の向上にある。合併の目的は、合併後の自治体の発展と住民の生活の向上にある。

2 合併の意義と目的

合併の意義は、合併後の自治体の発展と住民の生活の向上にある。合併の目的は、合併後の自治体の発展と住民の生活の向上にある。

3 合併の意義と目的

合併の意義は、合併後の自治体の発展と住民の生活の向上にある。合併の目的は、合併後の自治体の発展と住民の生活の向上にある。

平成の大合併は、「市町村の合併の特例に関する法律」の期限である平成18年3月で一段落する。今回の大合併により、市町村数は85から44へと減少した。社会環境の変化への対応が求められる中、どう合併を進めてきたのかの実態調査を行った。その結果、統合の積み残しや、将来像を明確してその実現に向けて自治・自立への取り組みが必要であるとの課題を確認した。

2007

平成19年

世界の出来事

- ・米大学で乱射事件、犯人など33人が死亡
- ・サブプライム問題表面化、世界的株安
- ・原油価格大高騰

国内の出来事

- ・第1回東京マラソン開催
- ・中部地方で能登半島地震・新潟県中越沖地震が発生。
- ・新語・流行語大賞：「(宮崎を)どげんかせんといかん」「ハニカミ王子」

1989 (平成元年)

'07/1 ~ '07/12

50th

3月号では、2005年度以降降ってきたシリーズ調査「いばらきの地域力」を総括。4月号からは、地域社会の消滅危機感から、テーマを「持続可能な社会を目指して」と題するシリーズ調査を開始した。調査対象は地域社会における生活文化、産業経済活動などを領域とし、地域区分調査を中心に実施した。



1月号からは新シリーズとして、地域の玄関口で地域の顔とも言える「駅前の風景」を紹介する。第1回目は、1998年(平成10年)に開設された常磐線で最も新しい駅「ひたち野うしく駅」前を紹介。

各号の調査テーマ

- 1月号 「2007年企業展望」
～産業構造変革期の雇用・人事戦略～
- 2月号 第4回生活行動圏調査速報
- 3月号 2006年度調査-いばらきの地域力-を終えて
- 4月号 持続可能な地域社会をめざして
～2007年度調査にむけて～
- 5月号 企業進出の現状と地域の課題
- 6月号 地域医療の現状と今後に向けて
- 7月号 持続可能な地域社会と農業
～今後の農業を支えるために～
- 8月号 つくばエクスプレス開通2年の現状と課題
- 9月号 地域社会における若年者雇用の現状と課題
～マッチングの強化に向けて～
- 10月号 市町村合併とまちづくり
～合併市町村の目指すまちづくりとは～
- 11月号 持続可能な地域社会を目指す地域区分調査 第1回
常陸大宮圏域
- 12月号 2007年年間経済回顧
～緩やかに回復してきた茨城県内経済は年後半に頭打ちの兆し～

茨城県内の出来事

トピックス 鹿島鉄道83年の歴史に幕

- ・圏央道つくば牛久IC-阿見東IC開通
- ・KDDI茨城衛星センター44年の歴史に幕
- ・全日本クラブ野球選手権大会で茨城ゴールデンゴールズが初優勝
- ・茨城交通奏線存続問題は第3セクター方式で存続合意
- ・つくばナンバー交付開始

この年の表紙一覧



Pick up



2005年度以降、地域の元気を創り出す力を「地域力」と定義し、当テーマでシリーズ調査を行ってきた。3月号では、2006年度の調査を振り返り、各調査から見えてきた課題に対して、地域資源の資本化、人材の活用、人材を生かすのは交流の力、交流を生み出す道具や触媒の活用など、4つの提言を行った。

世界の出来事

- ・ 米国証券大手リーマン・ブラザーズ破綻
- ・ 米国大統領選挙でバラク・オバマが当選
- ・ 四川省でマグニチュード7.9の大地震

国内の出来事

- ・ 秋葉原無差別殺傷事件
- ・ 北海道・洞爺湖サミット開催
- ・ 新語・流行語大賞:「アラフォー」「グ〜!」

1989 (平成元年)

'08/1 ~ '08/12

50th

前年から「持続可能な社会を目指して」をテーマにシリーズ調査を実施しており、本年は中間年にあたる。全9回に及ぶ地域区分調査は当年で6回実施。8月号では、中間総括として各地域区分別の課題について浮き彫りにするとともに、今後の方向性を探った。



ひたちなか海浜鉄道線は、1913年(大正2年)に開業。赤字続きで廃線危機にあったが、2008年にひたちなか市出資の第三セクター会社に運営が変わることで営業継続が決定した。那珂湊駅は当路線の主要駅。

各号の調査テーマ

- 1月号 持続可能な地域社会と環境(寄稿)~2008年私たちの取り組み
- 2月号 持続可能な地域社会を目指す地域区分調査 第2回~鹿嶋圏域~
- 3月号 古河圏域の特性と方向性を探る~持続可能な地域社会を目指す地域区分調査 第3回~
- 4月号 持続可能な地域社会を目指す地域区分調査 第4回~龍ヶ崎圏域~
- 5月号 持続可能な地域社会を目指す地域区分調査 第5回~石岡圏域~
- 6月号 地域公共交通の現状と課題~安心・快適に生活できる基盤の構築に向けて~
- 7月号 少子化時代の企業・行政戦略~需要縮小経済の中での可能性と課題を探索~
- 8月号 持続可能な地域社会を目指す地域区分調査「中間総括」
- 9月号 創業・起業の現状と課題
- 10月号 持続可能な地域社会を目指す地域区分調査 第6回~土浦圏域(土浦市・かすみがうら市・阿見町)~
- 11月号 持続可能な地域社会を目指す地域区分調査 第7回~筑西圏域~
- 12月号 後進色強まる茨城県経済~2008年年間経済回顧~

茨城県内の出来事

トピックス

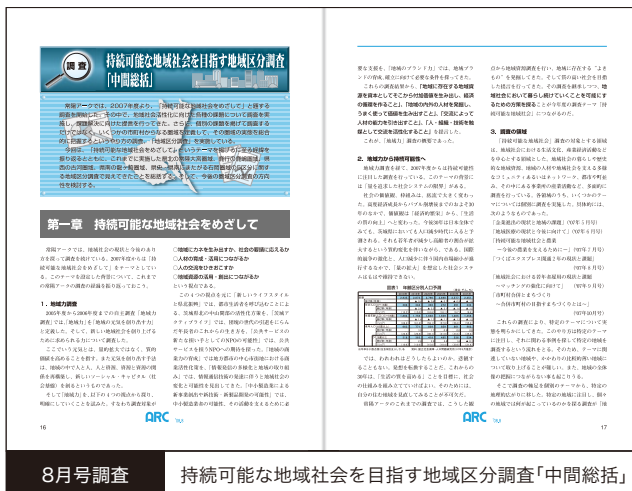
JR荒川沖駅と周辺で男が8人を刺し、男性1人が死亡、2人重体

- ・ ひたちなか海浜鉄道開業
- ・ 茨城交通が民事再生法適用申請
- ・ 第23回国民文化祭いばらき2008開催
- ・ 布川事件、東京高裁が再審指示
- ・ つくば市在住の高エネルギー研究所特別栄誉教授・小林誠にノーベル物理学賞

この年の表紙一覧



Pick up



2007年4月号において「持続可能な地域社会をめざして」というテーマを掲げ、以後、地域社会の活性化に向けた課題について各種調査を実施し、課題解決に向けた提言を行ってきた。8月号ではテーマを掲げた経緯を振り返り、これまで実施した常陸大宮圏域、鹿嶋圏域、古河圏域、龍ヶ崎圏域、石岡圏域の5区分の調査を総括し、今後の圏域区分調査の方向性を検討した。

世界の出来事

- ・全世界で新型インフルエンザ大流行
- ・米歌手のマイケル・ジャクソン急死
- ・イタリア中部で強い地震 死者250人以上

国内の出来事

- ・民主党圧勝、政権交代
- ・裁判員制度がスタート
- ・新語・流行語大賞：「政権交代」

1989 (平成元年)

'09/1 ~ '09/12

50th

約2年にわたり継続したシリーズ調査「持続可能な社会を目指して」を5月号で総括した。6月号以降は、テーマ設定を行わず、各研究員の個々の視点から、当時の取り巻く環境において課題とすべきテーマを抽出し調査を行った。



年間にわたり、研究員によるチャレンジ日記「体験いばらき」(第25回~36回)を掲載。今年はアウトドア体験が多く、最もハードな体験は、6月号の「いしおかトレイルラン大会」への参加であった(総距離20.3km、高低差約320m)。

各号の調査テーマ

- 1月号 茨城 食の現場
- 2月号 持続可能な地域社会を目指す地域区分調査 (第8回 日立圏域)
- 3月号 持続可能な地域社会を目指す地域区分調査 (第9回 ひたちなか圏域)
- 4月号 いばらきの観光
- 5月号 持続可能な地域社会を目指す地域区分調査 総括
- 6月号 世界同時不況下の県内企業
- 7月号 サービス産業化とこれからの店舗型商業
- 8月号 地域における介護の現状と課題
- 9月号 市場として茨城県際地域をみる (内需系企業における市場拡大の方向性)
- 10月号 社会起業家もたらす変化の可能性
- 11月号 環境市場の形成と地域の発展可能性
- 12月号 持ち直しつつも、回復感に乏しい茨城県経済 (世界同時不況後の2009年経済回顧)

茨城県内の出来事

トピックス 圏央道の阿見東IC~稲敷ICが開通

- ・茨城交通、事業譲渡へ
- ・つくばエクスプレス、開業以来初の営業黒字
- ・大型商業施設の出・閉店相次ぐ(出店:イオン土浦ショッピングセンター、あみプレミアム・アウトレット。閉店:リヴィン水戸店)
- ・くめクオリティプロダクツが民事再生法適用を申請
- ・布川事件で最高裁が特別抗告却却し再審確定
- ・荒川沖9人殺傷事件で金川真大被告に死刑判決

この年の表紙一覧



Pick up

持続可能な地域社会を目指す地域区分調査 総括

「持続可能な地域社会を目指す地域区分調査」は、2007年4月号から2009年5月号まで、12回にわたって掲載された。この総括号では、これまでの調査結果を振り返り、今後の調査の方向性を示す。

第一章「持続可能な地域社会をめざして」調査の経緯

調査の経緯は、2007年4月号の「持続可能な地域社会を目指す地域区分調査」から始まる。この調査は、地域の持続可能性を高めるための取り組みを支援することを目的として行われた。

調査の経緯は、2007年4月号の「持続可能な地域社会を目指す地域区分調査」から始まる。この調査は、地域の持続可能性を高めるための取り組みを支援することを目的として行われた。

5月号調査 持続可能な地域社会を目指す地域区分調査 総括

5月号は、今後の調査への指針とするために、「持続可能な地域社会をめざして」をテーマとした2年間の調査を振り返り、その成果と課題を明らかにするなどの総括を行った。総括では、「持続可能な地域社会をめざして」のシリーズ調査を始めるにあたり、方向性を示して頂いた4人の識者に再び議論して頂いた。

世界の出来事

- ・カリブ海・ハイチで大地震、死者20万人
- ・アイスランドで火山噴火 世界の空混乱
- ・チリ鉱山事故 生き埋め33人の生存確認

国内の出来事

- ・日本航空、会社更生法の適用を申請
- ・宮崎県で家畜の伝染病・口蹄疫が拡大
- ・新語・流行語大賞:「ゲゲゲ」

1989 (平成元年)

'10/1 ~ '10/12

50th

年間を通じてシリーズテーマを定めず、各研究員が地域課題として認識する分野について調査を行った。調査分野については、産業・経済、地域と外国人の共存、いばらきの食と農業、インフラ整備、シニアビジネスなど多岐にわたる。また、グラビアについては、各市町村別のPR特集「いばらき自慢マップ」を開始した。



「平成の大合併」といわれる再編で県内市町村数は44に集約された。そこで新しいまちの姿を探るため、今月から「いばらき自慢マップ」を連載。第1回は2006年に旧水海道市と旧石下町が合併して誕生した常総市を取り上げた。

各号の調査テーマ

- 1月号 茨城県内の新エネルギーを取り巻く動き
- 2月号 地域と大学の関わりを考える
- 3月号 第5回 茨城県生活行動圏調査速報
- 4月号 地域経済を活性化する中小製造業の挑戦
～地域資源活用の可能性～
- 5月号 地域と外国人の共生
～茨城県内の外国人の生活実態を探る～
- 6月号 高齢化時代の企業戦略
～シニアを取り込むビジネス展開のポイント～
- 7月号 いばらきの食による地域活性化
- 8月号 「インフラ整備と北関東3県の交流・連携の可能性」
～北関東自動車道開通の効果～
- 9月号 日立、ひたちなか地域の製造業の構造変化とこれからの方向性
- 10月号 女性の就業と企業の対応～女性の働きやすい職場とは～
- 11月号 生産者と消費者の関係を重視した農業の可能性
- 12月号 2010年の茨城県経済回顧
～減速局面を迎えつつある県内経済～

茨城県内の出来事

トピックス 茨城空港開港

- ・茨城県住宅公社、水戸地裁に破産申請
- ・関東つくば銀行と茨城銀行が合併、「つくば銀行」誕生
- ・桜川市真壁地区が本県初の重要伝統的建造物保存地区に選定
- ・米ブリツカー賞に日立市出身建築家・妹島和世選出
- ・予科練記念館オープン
- ・日野自動車、古河市に工場用地取得

この年の表紙一覧



Pick up

日立、ひたちなか地域の製造業の構造変化とこれからの方向性

【要約】日立、ひたちなか地域の製造業は、リーマン・ショック後の大幅な需要減少と世界経済における新興国の台頭、社会インフラや環境・エネルギー産業など新たな成長分野の顕現化、グローバル展開を加速する日立製作所の経営戦略など、これまでになく変化に直面している。9月号では、これらの点に着目し、日立、ひたちなか地域の製造業の構造変化とこれからの方向性について調査を行った。

日立、ひたちなか地域の製造業の構造変化とこれからの方向性

日立製作所は、日立グループ（日立グループ）として、日立、ひたちなか地域の製造業の構造変化とこれからの方向性について調査を行った。日立製作所は、日立グループ（日立グループ）として、日立、ひたちなか地域の製造業の構造変化とこれからの方向性について調査を行った。

世界の出来事

- ・ 中国共産党総書記に習近平が選ばれる
- ・ 金正恩が朝鮮労働党第1書記に
- ・ 米・大型ハリケーンで死者100人以上

国内の出来事

- ・ 東京スカイツリー開業
- ・ 消費税を10%へ引き上げる消費税法改正案が可決
- ・ 新語・流行語大賞:「ワイルドだろお」

1989 (平成元年)

'12/1 ~ '12/12

50th

震災1年後の3月号では、常陽アークの震災関連調査を振り返るとともに、県内の復旧・復興について確認した。4月号以降は震災関連から離れ、海外進出、ソーシャルメディア、中心市街地活性化、新規就農など県内で噴出する課題をテーマに調査した。



6月号は、北茨城市を取り上げた。同市は、東日本大震災時、漁港や施設、文化財などに甚大な被害を受けた。そのような中、津波で流失した六角堂を、茨城大学中心のプロジェクトにより再建するなど、復興の途にある風景を紹介。

各号の調査テーマ

- 1月号 新春特集 文化・芸術は震災後の希望の光となるのか
- 2月号 県内住宅市場の現状と方向性
～変化する社会構造・東日本大震災の影響を探る～
- 3月号 震災から1年 いばらきの復興にとって大切なこと
- 4月号 海外進出に挑む中小製造業 ～海外進出の現状と課題～
- 5月号 ソーシャルメディアを活用したまちづくりの可能性
～自治体、地域住民の取り組み～
- 6月号 中心市街地の活性化に向けて
～県内主要都市の現状と方向性～
- 7月号 企業立地を再考する
～県内の企業立地の現状と課題を探る～
- 8月号 県内食品小売市場の現状と展望
～豊かで安全・安心な食の提供に向けて～
- 9月号 新規就農の促進にむけて
- 10月号 茨城県内の在宅介護の現状と課題
- 11月号 いばらきの消費スタイルと小売・サービス市場調査
第1回未婚の若者世代の消費の特徴
- 12月号 2012年茨城県経済回顧
～外需・内需ともに弱まる県内経済～

茨城県内の出来事

トピックス つくば市で竜巻により、1人死亡、42人負傷

- ・ 「いばキラTV」(茨城県運営インターネットTV)開局
- ・ 津波で流された六角堂(北茨城市)再建
- ・ 日野自動車古河工場のKD(ノックダウン)工場稼働
- ・ 朝日トンネル供用開始
- ・ 柗栖と素問題で県が被害者住民側と和解
- ・ 小澤征爾館長、闘病生活乗り越え約2年半振り指揮

この年の表紙一覧



Pick up



前年3月11日に発生した東日本大震災は、県内の文化・芸術分野にも様々な被害をもたらした。そのような中、震災後の早い時期から、こころを元気づける希望の光の役割を担うものとして、文化・芸術を求める動きが市民レベルで出てきた。震災後の復興にあたり、文化・芸術がどのような役割を担っていく可能性があるのかを調査した。

世界の出来事

- ・ 習近平が中国の国家主席に就任
- ・ アルジェリア人質事件発生
- ・ 台風30号によりフィリピンで甚大な被害

国内の出来事

- ・ アベノミクススタート、異次元金融緩和により円安・株高に
- ・ 富士山、世界遺産に認定
- ・ 新語・流行語大賞:「今でしょ!」「じえじえ」「おもてなし」「倍返し」

1989 (平成元年)

'13/1 ~ '13/12

50th

消費調査と地域調査が主要調査。前半はいばらきの消費スタイルと小売・サービス市場調査と題して、特定の消費者層にフォーカスした調査を行った。後半は各地域の特徴に応じたテーマを設定し、その現状と展望について考察している。

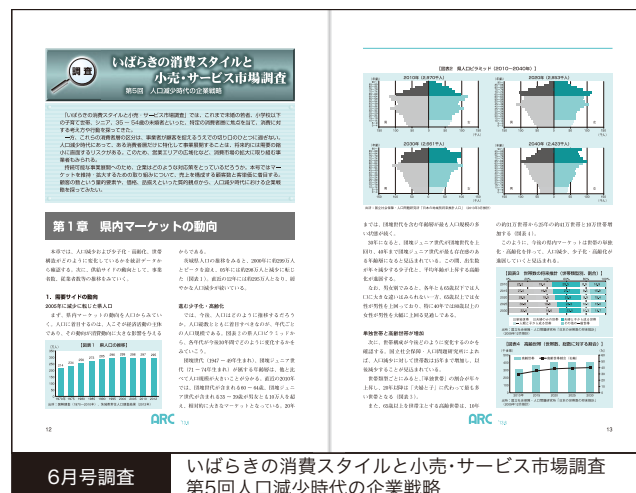


桜川市の小田部鋳造は、関東で唯一梵鐘の製造をする勅許御鋳師として、日本で唯一菊の紋章の使用を許されている。河内国(現大阪府)から移り住み、800年間にわたり梵鐘など鋳物製品を製造してきた。庄右衛門氏は37代目にあたる。

各号の調査テーマ

- 1月号 新春特集 2013 はばたくいばらきの企業
- 2月号 いばらきの消費スタイルと小売・サービス市場調査 第2回子育て世帯の消費志向と企業の対応
- 3月号 いばらきの消費スタイルと小売・サービス市場調査 第3回シニア世代の消費志向と企業の対応
- 4月号 復興へのみち～県北中山間地域の現在(いま)～
- 5月号 いばらきの消費スタイルと小売・サービス市場調査 第4回未婚ミドルの消費行動
- 6月号 いばらきの消費スタイルと小売・サービス市場調査 第5回人口減少時代の企業戦略
- 6月増刊号 いばらきの消費スタイルと小売・サービス市場調査 増刊号
- 7月号 広域交通ネットワークによる産業振興の可能性 ～インフラ整備による県内の物流・観光の変化を探る～
- 8月号 いばらきの就職最前線
- 9月号 つくばエクスプレス沿線地域の現状とこれから
- 10月号 日立・ひたちなか地域の現状と展望 ～まちづくりの視点から～
- 11月号 古河地域の現状と展望 ～産業・インフラ整備動向から今後の可能性を探る～
- 12月号 2013年茨城県経済回顧 ～年後半にかけて持ち直しの動きがみられる県内経済～

Pick up



人口減少時代が続くにあたり、将来的には需要の縮小に直面するリスクがある。持続可能な事業展開に向けて、企業はどのような対応策をとっているのか。マーケットを維持・拡大するための取り組みについて、売上を構成する顧客数と客単価に着目し、顧客の数という量的要素、価格、品揃えといった量的観点から人口減少時代における企業戦略を探った。

世界の出来事

- ・ マレーシア航空370便墜落事故発生
- ・ ブラジルワールドカップ開幕
- ・ 西アフリカ地域でエボラ出血熱が流行

国内の出来事

- ・ 消費税率、5%から8%へ引き上げ
- ・ 御嶽山が噴火、63名が死亡・行方不明に
- ・ 新語・流行語大賞:「ダメよ〜ダメダメ」「集团的自衛権」

1989 (平成元年)

50th

'14/1 ~ '14/12

前半はシリーズ調査「震災復興とこれからのいばらき」を継続実施し、7月号で総括を行った。8月号からは、新たなテーマ「いばらきの価値創造」を設定し、「潜在力」、「デザイン力」、「連携力」の3つをキーワードにシリーズ調査を開始した。

茨城県内の出来事

トピックス 消費増税前の駆け込み需要の反動減により、県内企業の景況感悪化

- ・ ジェトロ茨城貿易情報センター開所
- ・ 日立製作所と三菱重工業が火力発電事業を統合
- ・ 上半期の工場立地動向で三冠を達成
- ・ 北茨城市で被災住民の高台移転が開始
- ・ 県北5農協合併、「JA常陸」誕生
- ・ 八溝山周辺地域定住自立圏形成協定締結

茨城の職人

ー江戸小紋染師 現代の名工 浅野 榮一 さんー



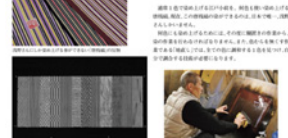
江戸小紋は江戸時代から諸大名が着用した袴(かみしも)が発祥。幕府からの規制を避けるため、遠くからは無地に見えるほどの細かい模様が特徴である。なお、浅野氏のように極度に細かい江戸小紋染師は現在2人しか存在しない。



4月号グラビア 茨城の職人 ー江戸小紋染師 現代の名工 浅野 榮一 さんー



江戸小紋の模様の拡大写真。細かい模様が特徴である。

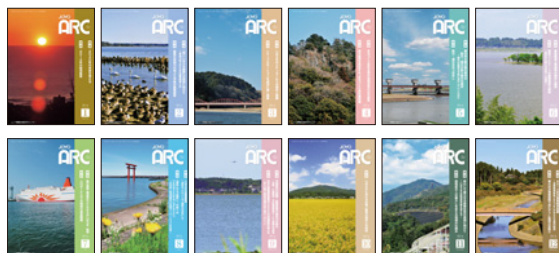


江戸小紋の模様の拡大写真。細かい模様が特徴である。



浅野 榮一 さんの肖像写真。

この年の表紙一覧



各号の調査テーマ

- 1月号 2040年の未来を考える
- 2月号 「強いいばらき農業」の実現に向けて
～収益力向上のための農業経営とは～
- 3月号 いばらきのシティセールスの現状と課題
- 4月号 まちづくり会社主導の地域活性化の可能性
- 5月号 東日本大震災後の県内の防災・減災の取り組みの現状
～震災の経験を今後活かしていくために～
- 6月号 鹿島臨海工業地帯の現状と展望
- 7月号 震災復興・構造変化とこれからのいばらき 総括
- 8月号 いばらきの価値創造
～潜在力、デザイン力、連携力を活かして
- 9月号 茨城県内の健康・医療産業の潜在力を探る
～医療・介護機器、予防健康管理サービス産業の可能性～
- 10月号 いばらきにおける外国人雇用の現状と方向性
- 11月号 安心して暮らせる長寿社会の実現に向けて
～いばらきの認知症対策を考える～
- 12月号 2014年茨城県経済回顧
～消費増税後「もたつき」がみられる県内経済～

Pick up

いばらきの価値創造 ～潜在力、デザイン力、連携力を活かして

第1章 地域を取り巻く環境及び各種基盤の変化
～今、号基盤環境の

1. 物理的基盤及び環境基盤の現状と課題
2. 人的基盤の現状と課題
3. 経済的基盤の現状と課題
4. 社会的基盤の現状と課題
5. 環境的基盤の現状と課題

第2章 地域を取り巻く環境及び各種基盤の変化
～今、号基盤環境の

1. 物理的基盤及び環境基盤の現状と課題
2. 人的基盤の現状と課題
3. 経済的基盤の現状と課題
4. 社会的基盤の現状と課題
5. 環境的基盤の現状と課題

いばらきの価値創造 ～潜在力、デザイン力、連携力を活かして

第1章 地域を取り巻く環境及び各種基盤の変化
～今、号基盤環境の

1. 物理的基盤及び環境基盤の現状と課題
2. 人的基盤の現状と課題
3. 経済的基盤の現状と課題
4. 社会的基盤の現状と課題
5. 環境的基盤の現状と課題

第2章 地域を取り巻く環境及び各種基盤の変化
～今、号基盤環境の

1. 物理的基盤及び環境基盤の現状と課題
2. 人的基盤の現状と課題
3. 経済的基盤の現状と課題
4. 社会的基盤の現状と課題
5. 環境的基盤の現状と課題

2014年度から3年間の自主調査テーマを「いばらきの価値創造～潜在力、デザイン力、連携力を活かして」とした。8月号は、同テーマを実施していくにあたり、地域を取り巻く環境と各種基盤の変化を再確認するとともに、有識者による座談会や県外事例調査を通して得られた知見をもとに、調査テーマの考え方や、次号以降への指針を整理した。

世界の出来事

- ・ 米国とキューバ、54年ぶりに国交回復
- ・ パリ同時多発テロ事件発生
- ・ TPP(環太平洋連携協定)が大筋合意

国内の出来事

- ・ 北陸新幹線が金沢まで延伸開業
- ・ ラグビーW杯で日本が南アフリカに勝利
- ・ 新語・流行語大賞:「爆買い」「トリプルスリー」

1989 (平成元年)

50th
'15/1 ~ '15/12

県西地域をモデル地域として、「人口減少にどう立ち向かっていくか」をテーマに3回にわたり調査した。また、日立グループの構造変化が著しい日立・ひたちなか地域について、現状と展望を2回にわたって調査するなど、主に特定地域のシリーズ調査を行った。

いばらきの食材

りんご

りんごは世界中で愛され、人類の歴史の中で最も重要な果物の一つである。日本には古くからりんごが栽培されており、現在ではりんごの産地として知られている。大子町はりんごの産地として知られ、「奥久慈りんご」ブランドとして有名である。同町のりんご農家はすべて観光農園であり、樹上完熟や多品種生産にこだわっている。

11月号グラビア いばらきの食材 りんご

大子町はりんごの産地として知られ、「奥久慈りんご」ブランドとして有名である。同町のりんご農家はすべて観光農園であり、樹上完熟や多品種生産にこだわっている。

各号の調査テーマ

- 1月号 新春特集 スポーツの祭典が地域にもたらす効果
～東京オリンピック・パラリンピックと茨城国体～
- 2月号 県内公共交通の現状と展望
～持続可能な公共交通の確立に向けて～
- 3月号 地域における女性起業家の現状と展望
～女性の多様な就労の促進に向けて～
- 4月号 県内の空き家対策の現状と課題
- 5月号 人口減少にどう立ち向かうか～県西地域の創生を考える～
第1部 地域の現状と課題
- 6月号 人口減少にどう立ち向かうか～県西地域の創生を考える～
第2部 働けるまちづくりに向けて
- 7月号 人口減少にどう立ち向かうか～県西地域の創生を考える～
第3部 暮らしやすいまちづくりに向けて
- 8月号 日立グループを巡る取引構造変化と日立・ひたちなか地域の中小製造業
第1部 日立グループの変化と中小製造業との関係性の変化
- 9月号 日立グループを巡る取引構造変化と日立・ひたちなか地域の中小製造業
第2部 日立・ひたちなか地域の中小製造業の現状と展望
- 10月号 県内の物価・企業収益・労働需給動向と所得環境の改善度合い
- 11月号 いばらきの消費スタイルと小売・サービス市場調査
2015～2016 第1回シニア世代の消費行動
- 12月号 2015年茨城県経済回顧
～経済の好循環、道半ばの県内経済～

茨城県内の出来事

トピックス 「平成27年9月関東・東北豪雨」発生

- ・ 上野東京ライン開業
- ・ 水戸市の旧弘道館などが日本遺産に認定
- ・ 涸沼、ラムサール条約に登録
- ・ 銚田市の海岸でサメ出没、海水浴場で遊泳禁止に
- ・ 鹿島アントラーズがナビスコ杯優勝
- ・ 地方創生の取り組みが開始

この年の表紙一覧



Pick up

県内の空き家対策の現状と課題

人口減少に伴い、空き家の増加が深刻化しています。本調査では、県内の空き家対策の現状と課題を調査しました。

第1章 県内の空き家の現状

1. 空き家の現状と課題

2. 空き家の対策と課題

県内の空き家対策の現状と課題

人口減少に伴い、空き家の増加が深刻化しています。本調査では、県内の空き家対策の現状と課題を調査しました。

第2章 県内の空き家の対策と課題

1. 空き家の対策と課題

2. 空き家の対策と課題

都市への人口集中や世帯構成の変化に加え、高齢化や人口減少が進む中、今後空き家問題は一層深刻化していくことが予想される。そこで4月号では、統計データや行政の取り組み状況、地域の現状を整理した。加えて、空き家の活用や中古住宅市場の活性化に向けた事例ヒアリングを行い、県内の空き家の実態と課題、対策の方向性を調査した。

世界の出来事

- ・ 英国、国民投票で「EU離脱」
- ・ 米大統領選でドナルド・トランプ当選
- ・ ポプ・ディラン、ノーベル文学賞

国内の出来事

- ・ 最大震度7の熊本地震が発生
- ・ 日本銀行、マイナス金利を初導入
- ・ 新語・流行語大賞:「神ってる」

1989 (平成元年)

50th

'16/1 ~ '16/12

2月～4月号では、前年実施したアンケート調査結果から、消費スタイルと小売・サービスに関するシリーズ調査を実施。5月号以降は新たなシリーズテーマ「いばらきの創生を考える」を設定し、地方創生に向けた各地域の課題解決のためのヒントを探った。

いばらきの食材

福来みかん

茨城県はみかん栽培の北限とされ、その中でも筑波山麓で栽培されてきた福来みかんは、栽培期間が長いことと独特の栽培方法による、酸味と甘味のバランスがとれた品種である。呼び名は熟すと果皮と実が離れて膨れることから名づけられ、最近では様々な加工商品がつくられている。



茨城県はみかん栽培の北限とされ、その中でも筑波山麓で栽培されてきた福来みかんは、栽培期間が長いことと独特の栽培方法による、酸味と甘味のバランスがとれた品種である。呼び名は熟すと果皮と実が離れて膨れることから名づけられ、最近では様々な加工商品がつくられている。

筑波山麓

茨城県はみかん栽培の北限とされ、その中でも筑波山麓で栽培されてきた福来みかんは、栽培期間が長いことと独特の栽培方法による、酸味と甘味のバランスがとれた品種である。呼び名は熟すと果皮と実が離れて膨れることから名づけられ、最近では様々な加工商品がつくられている。



茨城県はみかん栽培の北限とされ、その中でも筑波山麓で栽培されてきた福来みかんは、栽培期間が長いことと独特の栽培方法による、酸味と甘味のバランスがとれた品種である。呼び名は熟すと果皮と実が離れて膨れることから名づけられ、最近では様々な加工商品がつくられている。

12月号グラビア いばらきの食材 福来みかん

茨城県はみかん栽培の北限とされ、その中にあって筑波山麓で栽培されてきた福来みかんはこの地域特有の品種である。呼び名は熟すと果皮と実が離れて膨れることから名づけられ、最近では様々な加工商品がつくられている。

各号の調査テーマ

- 1月号 新春特集 未来を拓く新技術
～生活を変える商品・サービスへの期待～
- 2月号 中学生の子どもを持つ世帯の消費行動と消費志向
～茨城県生活行動調査結果及び県内消費者アンケート調査結果から～
- 3月号 いばらきの消費スタイルと小売・サービス 市場調査2015～2016
第2回 子育て世帯の消費行動
- 4月号 いばらきの消費スタイルと小売・サービス 市場調査2015～2016
第3回 未婚者の消費行動と消費志向
- 5月号 いばらきの創生を考える2016～2017 第1回
いばらきの特区～規制改革による地域振興の現状と展望～
- 6月号 いばらきの創生を考える2016～2017 第2回 鹿行地域
- 7月号 いばらきの創生を考える2016～2017 第3回
県北山間地域～ヒアリングから得る地方創生へのヒント～
- 8月号 いばらきの創生を考える2016～2017 第4回
栃木県との連携可能性
- 9月号 いばらきの創生を考える2016～2017 第5回 県央地域
- 10月号 いばらきの創生を考える2016～2017 第6回
女性活躍推進の現状と今後の視点
～出産・子育てと仕事の両立にむけて～
- 11月号 いばらきの創生を考える2016～2017 第7回
つくばエクスプレス沿線地域
- 12月号 茨城県経済回顧2016
～所得面から支出面への好循環実現は道半ば～

この年の表紙一覧

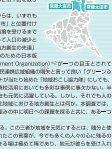


Pick up

いばらきの創生を考える2016～2017

第3回 県北山間地域～ヒアリングから得る地方創生へのヒント～

この号は、県北山間地域の現状と課題、そして地方創生へのヒントを探る。ヒアリングを通じて、地域の課題と課題解決のためのヒントを探る。



調査の背景と経緯

本調査は、県北山間地域の現状と課題、そして地方創生へのヒントを探る。ヒアリングを通じて、地域の課題と課題解決のためのヒントを探る。

調査の目的と経緯

本調査は、県北山間地域の現状と課題、そして地方創生へのヒントを探る。ヒアリングを通じて、地域の課題と課題解決のためのヒントを探る。

7月号は、常陸太田市、常陸大宮市、大子町からなる県北山間地域を取り上げた。これらの自治体は「消滅可能性都市」とされたが、そのような指摘を受ける前から長年地方創生に取り組んできた地域であり、それでも人の流れが変わらないのが実情である。そこで地域を元気にするとされる「よそ者・若者・ばか者の眼」にフォーカスし、改めてこの地域の取組課題を考察した。

平成29年

世界の出来事

- ・トランプ米大統領がTPP 離脱を表明
- ・マクロンが39歳で仏大統領に就任
- ・北朝鮮が6回目の核実験

国内の出来事

- ・ 14歳の棋士、藤井四段が公式戦29連勝の新記録
- ・ 上野動物園でジャイアントパンダ・シャンシャン誕生
- ・ 新語・流行語大賞:「インスタ映え」「忖度」

1989 (平成元年)

50th

'17/1 ~ '17/12

茨城県内の出来事

トピックス

本県出身力士の稀勢の里が横綱に、高安関が大関に昇進

- ・圏央道の茨城県内区間が全線開通
- ・西武筑波店閉店
- ・県北地域が舞台の連続テレビ小説「ひよっこ」放送
- ・県知事選で大井川和彦が初当選
- ・日立市で母子6人殺害事件が発生
- ・日野自動車古河工場本格稼働



筑波山麓の傾斜地では、水はけと日当たりのよさにより、様々な果樹栽培が行われている。その中で石岡市八郷地区の富有柿は、特に果汁が多く甘みが強いという品質のよさを認められ、昭和ごろから皇室へ献上されている。

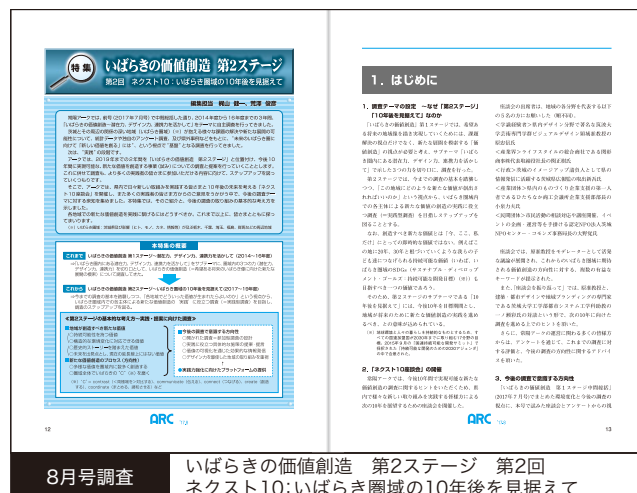
この年の表紙一覧



各号の調査テーマ

- **1月号** 新春特集 地域の発展とイノベーション
- **2月号** いばらきの創生を考える2016～2017 第8回
出産・子育てしやすいまちに向けて
- **3月号** いばらきの創生を考える2016～2017 第9回
県南地域～ベッドタウンの再生を切り口とした地方創生～
- **4月号** いばらきの創生を考える2016～2017 第10回
古河地域～圏央道の活用によるポスト産業立地の展望～
- **5月号** いばらきの創生を考える2016～2017 第11回
県北臨海地域
～「KENPOKU ART 2016 茨城県芸術祭」と地方創生～
- **6月号** 県内企業の設備投資動向～「底堅い」投資の内容とは～
- **7月号** いばらきの価値創造 中間総括 第1回
いばらきの価値創造 第1ステージ総括
- **8月号** いばらきの価値創造 第2ステージ 第2回
ネクスト10:いばらき圏域の10年後を見据えて
- **9月号** 統計からは「見えない」消費
- **10月号** 働き手にとっての「いい会社」とは
～茨城県内就業者アンケート結果から～
- **11月号** 明日への社会インフラとは何か
～アメニティ・インフラへのリノベーション～
- **12月号** 茨城県経済回顧2017「持ち直しが続く県内経済」
～「人」の問題が足かせに～

- Pick up



2019年までの2年間で「いばらきの価値創造 第2ステージ」と位置付け、今後10年間に実現可能な、新たな価値を創造する事業(試み)についての提案を行っていくこととした。そこで8月号では、県内で日々新しい取組みを実践されている事業者、有識者を招集して「ネクスト10座談会」を開催、今後の調査の取組みに関する基本的な考え方を示して頂いた。

世界の出来事

- ・史上初の米朝首脳会談
- ・第1次大戦終結100年
- ・TPP、米国を除く11か国で年内発効

国内の出来事

- ・北海道胆振東部地震発生
- ・日産カルロス・ゴーン会長逮捕
- ・新語・流行語大賞:「そだねー」

1989 (平成元年)

50th

'18/1 ~ '18/12

9月号までは前年に引き続き「next Xシリーズ調査」を実施した。テーマは、「働き方の未来」や「生き生きとした職場づくり」、「持続可能な地域づくり」を掲げた。10-12月合併号では、いばらきの価値創造第2ステージについて、各研究員の視点をまとめた。

7月号グラビア
いばらきの美 もっといばらきを好きになる
「つくば霞ヶ浦りんりんロード」

7~9月号では、人々の目を引き付け思わず写真を撮りたくなる美しい景色、そこにしかない物語にフォーカスした。第1回は旧筑波鉄道の廃線活用敷の自転車道と霞ヶ浦湖岸道路から誕生した全長約180kmのサイクリングコースを紹介。

各号の調査テーマ

- 1月号 新春特集 生き生きと働ける職場づくり
～わが社の働き方改革～
- 2月号 持続可能な地域づくり
～受け継いだ地域資源(古民家)を未来にどう引き継ぐか～
- 3月号 「おもてなし」分野の生産性向上
～ロボット、AIといった新技術導入による可能性～
- 4月号 未来の働き方
～ワークライフバランスからワークライフコリティへ～
- 5月号 持続可能な地域づくりに向けて
～豊富な食材を活かす「食の王国」への可能性を探る～
- 6月号 茨城県内の生産用機械産業の現状と展望
- 7月号 いばらきの人口減少・少子高齢化と、暮らしの中の不安
- 8月号 持続可能な地域づくりに向けて
～「地域商社」からみる地域活性化への課題～
- 9月号 「活用」から「活躍」へ 女性の働き方の現在と未来
- 10-12月号 いばらき価値創造第2ステージ調査を振り返って

この年の表紙一覧



Pick up

5月号調査
持続可能な地域づくりに向けて
～豊富な食材を活かす「食の王国」への可能性を探る～

調査のポイント

- 茨城県は農業産出額で7年連続全国第2位の農業県である。しかしながら、「食の王国」を実現するためには、生産者の所得向上や加工・流通の効率化、消費者への価値提供など、課題は多い。本調査では、持続可能な地域づくりに向けて、食の王国の実現に向けた課題を明らかにする。
- 茨城県は、食料の自給率が高い。食料の自給率が高いことは、食料の安定供給に貢献する。しかし、食料の自給率が高い一方で、食料の生産コストが高くなる傾向がある。食料の生産コストを下げ、食料の競争力を高めることが、持続可能な地域づくりに向けて重要な課題である。
- 食料の生産コストを下げ、食料の競争力を高めることが、持続可能な地域づくりに向けて重要な課題である。食料の生産コストを下げ、食料の競争力を高めることが、持続可能な地域づくりに向けて重要な課題である。
- 食料の生産コストを下げ、食料の競争力を高めることが、持続可能な地域づくりに向けて重要な課題である。食料の生産コストを下げ、食料の競争力を高めることが、持続可能な地域づくりに向けて重要な課題である。

調査の背景

茨城県は、食料の自給率が高い。食料の自給率が高いことは、食料の安定供給に貢献する。しかし、食料の自給率が高い一方で、食料の生産コストが高くなる傾向がある。食料の生産コストを下げ、食料の競争力を高めることが、持続可能な地域づくりに向けて重要な課題である。

調査の目的

茨城県は、食料の自給率が高い。食料の自給率が高いことは、食料の安定供給に貢献する。しかし、食料の自給率が高い一方で、食料の生産コストが高くなる傾向がある。食料の生産コストを下げ、食料の競争力を高めることが、持続可能な地域づくりに向けて重要な課題である。

調査の方法

茨城県は、食料の自給率が高い。食料の自給率が高いことは、食料の安定供給に貢献する。しかし、食料の自給率が高い一方で、食料の生産コストが高くなる傾向がある。食料の生産コストを下げ、食料の競争力を高めることが、持続可能な地域づくりに向けて重要な課題である。

調査の結果

茨城県は、食料の自給率が高い。食料の自給率が高いことは、食料の安定供給に貢献する。しかし、食料の自給率が高い一方で、食料の生産コストが高くなる傾向がある。食料の生産コストを下げ、食料の競争力を高めることが、持続可能な地域づくりに向けて重要な課題である。

調査の結論

茨城県は、食料の自給率が高い。食料の自給率が高いことは、食料の安定供給に貢献する。しかし、食料の自給率が高い一方で、食料の生産コストが高くなる傾向がある。食料の生産コストを下げ、食料の競争力を高めることが、持続可能な地域づくりに向けて重要な課題である。

茨城県は、農業産出額や耕地面積などでは常に全国で上位を争う「農業大県」と言われているが、それら豊富な食材を活かした「美味しい茨城」のイメージに乏しい。そこで5月号では、「農」と「食」に焦点を当て、県外事例調査や本県の食の関係者からのヒアリングを通じて、皆から「食の王国」と呼ばれる地域となるにはどうすべきか、その可能性を探った。